ナンバリング	段階	科目群	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学習目標	到達目標
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6				
KYO81-1-001	入門	教養	芸術教養論	必修	1	講義	1	1Q 2Q 4Q	双方向 遠隔	80						大学での学び方を学ぶ	大学生として主体的に学習に取り組むための教養を幅広く身につけます。学習への態度や姿勢、礼儀作法、学びの習慣化、シラバスの見方、単位取得の考え方、時間割の作り方、ノートの取り方、課題への取り組み方等の学習スキルを案内し、さらに、時間管理や目標設定、アクティブラーニングやプレゼンテーション技術など、自己管理やコミュニケーション方法について学びます。	・主体的に学ぶとはどういうことかを理解でき、それを他者に的確に伝えることができること。 ・主体的な学びが、実行できるようになること。	・主体的に学ぶとはどういうことかを理解できること。 ・主体的な学びが、実行できるようになること。
KYO81-1-002	入門	教養	アカデミックリサーチ	選択	1	講義	1	3Q		40		30	30			研究・制作のための調査と情報収集の方法を学ぶ	大学で研究・制作を行っていく上で必要となる調査、情報の収集方法について、正確に情報を入力・整理し、研究・制作に活かせるリテラシーを修得します。基礎的な情報探索の考え方について学び、大学図書館の利用方法、目的に応じた本や雑誌、映像資料の検索・収集方法、インターネットや学術データベースを活用する方法、文献、雑誌論文や専門書の調べ方等を実践しながら理解を深めます。	・調査、情報の収集方法を取得し、新たな方法について自ら学ぶことができる。 ・正確に情報を入力・整理し、それらを言語化して他者に伝えることができる。 ・それを研究・制作に活かせるよう、具体的な行動・取り組みに結びつけることができる。	・調査、情報の収集方法を取得する。 ・正確に情報を入力・整理することができる。 ・入手・整理した情報を、研究・制作に活かせるようになる。
KYO81-1-003	入門	教養	アカデミックライティング	選択	1	講義	1	4Q		40			30			研究・制作のためのレポート・文章の書き方を学ぶ	研究や制作のためのレポート・文章を書くためには、主題の明確化、論理的な構成、正確な情報の引用、適切な文体や表現などが要点となります。整理されたアウトラインや段落構造、文法やスペルの注意、文章の流れの貫貫も重視されます。また、引用文献のリストや参考文献の作成も大切です。書く前に調査や計画を立て、草稿を作成し、編集や校正を行い、最終的にクオリティの高い文章を仕上げていく方法を学びます。	・正確に情報を入力・整理し、それらを言語化して他者に伝えることができる。 ・入手・整理した情報ををもとに自身の考えを、形式、内容、規定(指定されたルール)に沿って、正しく書き示すことができるようになる。	・正確に情報を入力・整理することができる。 ・情報をもとにした自身の考えを、正しく書き示すことができるようになる。
KYO81-1-004	入門	教養	情報リテラシー	選択	1・2	講義	1	1Q 2Q	双方向 遠隔	40			30		30	情報を活用するうえでの基礎知識を修得する	社会と呼应しながらアート/デザインの概念や役割が変化する現代。「リテラシー」も20世紀の「識字」という定義から、「読解」へとその意義が変化しています。インターネットの普及により文字言語以外にも映像や聴覚コンテンツ等が広く普及する中、情報の海に溺れぬよう、自ら選り分け、取捨選択し、認識出来ていなかった物事を概念化する技術が、これからのアーティスト/デザイナーに求められています。芸術とは何か。アートの定義、デザインの役割とは？これらの答えのないテーマに向き合いながら、生活環境から物事を捉え、課題を発見する為の視座と習慣について、参加者と共に考えていきます。	1)情報リテラシーに関する基礎的な知識を習得し、それらをもとにさらなる探求に結びつけることができる。 2)様々な情報とそのコンテキストを理解し、自ら解釈し、適切に言語化することができる。 3)テーマに対して、情報を組み合わせ、活用しながら他者に伝える工夫を施して解釈を表現することができる。	1)情報リテラシーに関する基礎的な知識を習得する。 2)様々な情報とそのコンテキストを理解し、自ら解釈することができる。 3)テーマに対して、情報を組み合わせ、活用しながら解釈を表現することができる。
KYO81-2-010	基礎	教養	データサイエンス入門1	選択	2・3	講義	1	3Q	双方向 遠隔	50		20	30			データを基に世界を正しく見る	データとは何か、データから捉えられる社会像とは何かという考察を通じて、世界情勢の実態を理解することを目指します。日本の統計が閲覧できる政府統計ポータルサイト「e-stat」を活用し、必要な統計情報の探し方や、それらのデータを具体的に捉えるための見方や考え方、把握する方法を、身近な例から実践を通して学びます。	1)適切なデータを調べることができるようになり、調べ方についても他者に説明できる。 2)さまざまなデータとそのコンテキストを理解し、自ら解釈することができ、それらを言語化することができる。 3)テーマに対して、情報を組み合わせ、活用しながら解釈を他者に適切に伝える工夫を施して表現することができる。	1)適切なデータを調べることができるようになる 2)さまざまなデータとそのコンテキストを理解し、自ら解釈することができる 3)テーマに対して、情報を組み合わせ、活用しながら解釈を表現することができる
KYO81-2-011	応用	教養	データサイエンス入門2	選択	2・3	講義	1	4Q	双方向 遠隔	50		20	30			データを理解、分析する際に必要な基礎スキルを学ぶ	データとは何か、データから捉えられる社会像とは何かを、データの分析を行うことで、より正確に世界の実態を理解できるようになることを目指します。日本の統計が閲覧できる政府統計ポータルサイト「e-stat」を活用し、具体的な数値データを参照しながら数理的思考を養い、世界を分析する方法、未来を予測する方法等、統計学の基礎を学びます。	1)適切なデータを調べることができるようになり、調べ方についても他者に説明できる。 2)さまざまなデータとそのコンテキストを理解し、自ら解釈することができ、それらを言語化することができる。 3)テーマに対して、データの整理・分析ができ、論理的に提示できるようになる	1)適切なデータを調べることができるようになる 2)さまざまなデータとそのコンテキストを理解し、自ら解釈することができる 3)テーマに対して、データの整理・分析ができるようになる
KYO81-1-005	基礎	教養	人権教育1	選択	1・2	講義	1	1Q 3Q	双方向 遠隔	50		30	20			日常生活における「人権」の再認識	「人権」とは、人が生まれながらにして持っている基本的な権利です。しかしながら、日常生活を送るうえで、人権という存在を常に意識している人は少ないでしょう。そもそも、自分が憲法や法律などのもので生活していると意識している人も少ないかもしれません。しかし、われわれが人権を持ち、それに関するルールが憲法に定められているということにより、われわれの活動が法的に保護されている、というのは事実です。本講義では、日本国憲法における人権に関するルールがどのようなものか、人権をめぐる実際のどのような事件が起こっているのかなどを見ていくことにより、みなさんが持っている人権を再認識してもらいたいと思っています。	・人権問題の多様性と共通性を学び適切に理解をしたうえで、課題を発見することができる。 ・解決に向けて自分の視点に加え、他者の視点、客観的な視点からも考えることが可能になること。	・人権問題の多様性と共通性を学び、適切に理解すること。 ・人権問題の解決に向けて、自分の視点から考えることが可能になること。
KYO81-1-006	基礎	教養	人権教育2	選択	1・2	講義	1	2Q 4Q	双方向 遠隔	50		30	20			人権問題を学び、その問題の解決に向けて考える	加速度的に変化する現代社会を念頭に、新技術・ポストヒューマニズム・人新世・ネット社会・犯罪といった様々な視点から、「なぜ」人権は守られなければならないのかをゼロベースで問い直します。そのことを通じて、みなさんには、人権を「自分ごと」として捉えてもらいます。全授業を終えたとき、みなさんが、決して悩みや困難を孤独に抱え込まなければならない存在ではなく、人権を通じてつながり支えあうことができる存在であることを実感してもらい、明日が少しだけ生きやすくなるような講義を展開します。	・人権問題の多様性と共通性を学び適切に理解をしたうえで、課題を発見することができる。 ・解決に向けて自分の視点に加え、他者の視点、客観的な視点からも考えることが可能になること。 ・人権に関する理解を深めた上で、自身の意見や考えを、他者に説得力をもって説明できる。	・人権問題の多様性と共通性を学び、適切に理解すること。 ・人権問題の解決に向けて、自分の視点から考えることが可能になること。 ・人権に関する自身の考えを、他者に表現できるようになること。
KYO81-1-007	基礎	教養	日本国憲法1	選択	1・2	講義	1	1Q 3Q	双方向 遠隔	50		30	20			日本国憲法というフィルターを通して日本社会を見つめ直す	我が国のカタチを規定している日本国憲法を通じて、日本社会固有の価値観ならびに日本社会そのものの理解を深めます。また、日本社会が有する現代的課題に対して洞察を行い、現代社会の答えのない課題に立ち向かうための視点を獲得します。ディスカッション・思考実験・体験型授業などを通じて、日本国憲法が守ろうとする「揺るがしがたい」価値を体感してもらいます。	・日本国憲法の思想を適切に理解し、他者に正しく説明できるようにすること。 ・日本国憲法について、日本社会が有する現代的課題について説得的なかたちで言語化できるようになること。	・日本国憲法の思想を適切に理解すること。 ・日本国憲法について、日本社会が有する現代的課題に対して自ら論じられるようになる。
KYO81-1-008	基礎	教養	日本国憲法2	選択	1・2	講義	1	2Q 4Q	双方向 遠隔	50		30	20			表現の自由と法の下での平等を考える	我が国のカタチを規定している日本国憲法を通じて、日本社会固有の価値観ならびに日本社会そのものの理解を深め、表現の自由と法の下での平等について考えていきます。また、日本社会が有する現代的課題に対して洞察を行い、現代社会の答えのない課題に立ち向かうための視点を獲得します。ディスカッション・思考実験・体験型授業などを通じて、日本国憲法が守ろうとする「揺るがしがたい」価値を体感してもらいます。	・日本国憲法の思想を適切に理解し、他者に正しく説明できるようにすること。 ・日本国憲法について、日本社会が有する現代的課題について説得的なかたちで言語化できるようになること。 ・表現の自由と法の下での平等について学び、自身の考えを他者に説明できるようにすること。	・日本国憲法の思想を適切に理解すること。 ・日本国憲法について、日本社会が有する現代的課題に対して自ら論じられるようになる。 ・表現の自由と法の下での平等について学び、自身の考えを他者に説明できるようにすること。
KYO81-2-012	基礎	教養	法学基礎	選択	2・3	講義	1	1Q 3Q	双方向 遠隔	50		30	20			クリエイターのための法学基礎	日本国憲法・知的財産・契約法等を中心に、クリエイターが社会に出ていく際に必要となる諸法規や法的思考を身につけることで活躍できるクリエイターを育成します。憲法や刑法・刑事訴訟法といった、国家と個人の関係を定める法を素材に、また、民法や知的財産法、労働法といった、みなさんがこれからクリエイターとして生きていくうえで、とくに関わりの深い法を素材に、法学の基礎を学んでもらいます。	・クリエイターが社会に出て必要となる契約・知財の基本的な理解ができ、適切に言語化できる。 ・契約・知財の基本的理解をもとに、他の知識・現実・状況などと関連づけて、それらを活用できるようになる。	・クリエイターが社会に出て必要となる契約・知財の基本的な理解ができる。 ・契約・知財の基本的理解をもとに、それらを活用できるようになる。

ナンバリング	段階	科目群	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学修目標	到達目標
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6				
KYO81-2-013	基礎	教養	国際政治学	選択	2・3	講義	1	2Q	双方向 遠隔	50		30	20			国際社会における国家間の関係や政策の基礎を学ぶ	現代ではグローバル化が進捗し、外国で起ることが自国、さらには皆さんの生活に大きな影響をもたらしています。逆もまた然りです。皆さんも国際政治に組み込まれています。こうした時代において、今の世界はどう作られ、どう動いているのか、それをどう理解すれば良いのか。本講義ではこうした問題意識のもと、政治学の中でも国際政治学に焦点を合わせ、国際政治の見方、歴史、インシュアの3つの観点から必要な基礎を学びます。これらを通して、世界の問題をグローバル社会の構成員の1人として自らの頭で考え、論理的に整理できるようになることを目的としています。	・国際社会の諸問題(政治、社会、経済、安全保障、文化、思想など)をよりよく理解し、さらなる探求のための行動に結びつけることができる。 ・国際政治の理解を深め、世界の複雑な問題について、自ら問いを立て、疑問を持ち、自らの言葉で論理的・説得的に論じることができるようになる	・国際社会の諸問題(政治、社会、経済、安全保障、文化、思想など)をよりよく理解できるようになる ・国際政治の理解を深め、世界の複雑な問題について、自ら問いを立て、疑問を持ち、自らの言葉で論じることができるようになる
KYO81-2-014	基礎	教養	経済学基礎	選択	2・3	講義	1	1Q 3Q	双方向 遠隔	50		30	20			芸大生のための経済・お金の基礎知識	身近な事例からニュースや新聞等で話題になっている経済の諸問題について批判的に考え、議論するスキルを養うことを目的とします。と同時に、より実践的にクリエイターが直面するお金やビジネスの基礎知識を修得します。講義で得られた知識を活用し、自分のお金に対する考え方を見つめなおし、今の現状や今後の将来設計に役立ててもらいます。	・クリエイターが直面するお金やビジネスの基礎知識を身につけ、適切に言語化できるようになる。 ・デザインや作品を経済的な視点から捉え、自分自身の現状や将来設計と関連づけて他者に論理的に説明することができる。	・クリエイターが直面するお金やビジネスの基礎知識を身につける。 ・デザインや作品を経済的な視点から捉えることができるようになる。
KYO81-2-015	基礎	教養	現代社会概論	選択	2・3	講義	1	3Q	双方向 遠隔	50		30	20			日本社会や世界の事象をリアルタイムで考える	現在社会に生じるさまざまな問題を、講義内でタイムリーに扱っていくことで、現代社会が抱える課題に対して洞察と分析を可能にしていきます。「社会とはなにか」「秩序とはなにか」といった社会そのものに対する社会的なモノの見方を学び、現代社会を適切に理解していく方法を知り、社会を捉える複眼的な視角を獲得します。	・現代社会の諸相に関心を持ち、自ら情報収集することができる。 ・学んだことや自ら集めた情報などともに、自分自身の意見を論じられるようになる。	・現代社会の諸相に関心を持ち、自ら情報収集することができる。 ・学んだことや自ら集めた情報などともに、自分自身の意見を論じられるようになる。
KYO81-2-016	基礎	教養	社会学	選択	2・3	講義	1	1Q 3Q	双方向 遠隔	50		30	20			社会学の基本概念を学び、社会の諸問題に対して理解を深める	社会学の基礎的なリテラシーを取得し、社会の諸課題に対して知識を整理し、社会そのものと社会に生じてくるさまざまな新しい価値に対して理解を深めます。家族、労働、グローバルイゼーション等のトピックに着目して、社会学が研究する各領域を概念的に紹介し、具体的なデータや図表を読み解きながら、現代社会の諸問題と諸現象に取り組み、日常を見つめ直す社会的想像力を養います。	・社会学理論における基礎概念と応用可能性について理解し、さらなる知識・理解の深化・拡張のための行動に結びつけることができる。 ・現代社会を客観的・批判的にとらえる社会学的な視点を身につけ、それらを論理的・説得的に他者に伝えることができる。	・社会学理論における基礎概念と応用可能性について理解することができる。 ・現代社会を客観的・批判的にとらえる社会学的な視点を身につける。
KYO81-2-017	基礎	教養	文化史1	選択	2・3	講義	1	夏期集中	双方向 遠隔	60			40			アジアの文化からみた日本文化の多様性	ユーラシア大陸の東の端に存在する列島である日本の文化は、その地理的特徴によって、朝鮮半島や中国大陸の文化を積極的に吸収した飛鳥～奈良時代の文化から始まりました。授業ではそうした日本の古代文化の源流となった中国を中心とした東アジアの文化を学び、さらにアジアという視点から多様性を含み持つ日本の文化を考察します。	・中国の古代文化、アジアの仏教文化を通じて、アジアの諸地域の文化を幅広く理解し、学んだことをもとに、さらなる探求のための行動に結びつけることができる。 ・「文化」というものが一国の文化のみでは成立しえないことを自覚し、アジア各地の文化や日本文化の多様性が理解でき、それらを他者に適切に伝えることができるようになる。	・中国の古代文化、アジアの仏教文化の学びを通じて、アジアの諸地域の文化を幅広く理解することができる。 ・「文化」というものが一国の文化のみでは成立しえないことを自覚し、アジア各地の文化や日本文化の多様性が理解できるようになる。
KYO81-2-018	基礎	教養	文化史2	選択	2・3	講義	1	夏期集中	双方向 遠隔	60			40			日本古代の仏教文化と日本美術にみるアジア文化の考察	ユーラシア大陸の東の端に存在する列島である日本の文化は、その地理的特徴によって、朝鮮半島や中国大陸の文化を積極的に吸収した飛鳥～奈良時代の文化から始まりました。授業ではアジアに広く流布した仏教の源流であるインドやガンダーラの仏像の文化について学び、さらにアジアという視点から日本の文化を考察します。	・日本古代の仏教文化、日本美術にみるアジア文化を通じて、アジアの諸地域の文化を幅広く理解し、学んだことをもとに、さらなる探求のための行動に結びつけることができる。 ・「文化」というものが一国の文化のみでは成立しえないことを自覚し、アジア各地の文化や日本文化の多様性が理解でき、それらを他者に適切に伝えることができるようになる。	・日本古代の仏教文化、日本美術にみるアジア文化の学びを通じて、アジアの諸地域の文化を幅広く理解することができる。 ・「文化」というものが一国の文化のみでは成立しえないことを自覚し、アジア各地の文化や日本文化の多様性が理解できるようになる。
KYO81-2-019	基礎	教養	考古学1	選択	2・3	講義	1	1Q	双方向 遠隔	60			40			古代人類の歴史を明らかにする手法を学ぶ	日本各地に数多く存在する著名な遺跡の調査の在り方を具体的に紹介しながら考古学の世界にふれていきます。そのなかで、日本の先史・古代の文化や資源に対する人の活動などを知り、理解を深めます。また、歴史学とは本質的に異なる、モノ(物質文化)を扱う学問としての考古学の具体的手法(発掘や分析方法)について学びます。	・古代人類の歴史がどのような方法で明らかにされてきたかを理解し、他者に適切に説明することができる。 ・考古学の調査・研究の基礎を理解した上で、自身の研究活動に取り組み、具体的に活かすことができる。	・古代人類の歴史がどのような方法で明らかにされてきたかを理解することができる。 ・過去人類の残した物質文化をもとにいかなる歴史復元が可能か、考古学の調査・研究の基礎を身につけることができる。
KYO81-2-020	基礎	教養	考古学2	選択	2・3	講義	1	2Q	双方向 遠隔	60			40			考古学の調査・研究の基礎を身につける	日本各地に数多く存在する著名な遺跡の調査の在り方を具体的に紹介しながら考古学の世界にふれていきます。そのなかで、日本の先史・古代の文化や資源に対する人の活動などを知り、理解を深めます。また、歴史学とは本質的に異なる、モノ(物質文化)を扱う学問としての考古学の具体的手法(発掘や分析方法)や歴史研究の役割について学びます。	・古代人類の歴史がどのような方法で明らかにされてきたかを理解し、他者に適切に説明することができる。 ・考古学の調査・研究の基礎を理解した上で、自身の研究活動に取り組み、具体的に活かすことができる。 ・歴史研究の役割について、他者に適切に説明することができる。	・古代人類の歴史がどのような方法で明らかにされてきたかを理解することができる。 ・過去人類の残した物質文化をもとにいかなる歴史復元が可能か、考古学の調査・研究の基礎を身につけ、自身の意見を述べるようになる。
KYO81-2-021	基礎	教養	民俗学1	選択	2・3	講義	1	1Q 3Q	双方向 遠隔	60			40			民俗学の性格と特徴を知り、調査方法の基礎を学ぶ	民俗学は、伝承を基盤として構成された生活文化や思考様式である民俗を研究対象としています。この授業では、日本列島に住む人々が、一年や一年という時間などを、どのように伝承してきたのかを、現代民俗の事例も加えつつ、これまでの民俗学の成果から紹介していきます。事例をもとに、過去から未来にわたる豊かな日本の民俗を学びます。	・民俗学の基礎的用語について把握・理解し、他者に適切に説明できるようになる。 ・民俗学の一般的な知識をふまえ、それらに対する自分自身の解釈や考察について適切に言語化できるようになる。	・民俗学の基礎的用語について把握・理解できるようになる。 ・民俗学の一般的な知識を持てるようになる。
KYO81-2-022	基礎	教養	民俗学2	選択	2・3	講義	1	2Q 4Q	双方向 遠隔	60			40			伝承を基盤に構成された、豊かな日本の民俗を学ぶ	民俗学は、伝承を基盤として構成された生活文化や思考様式である民俗を研究対象としています。この授業では、日本列島に住む人々が、里・海や山という空間、そこに祀られる神々などを、どのように伝承してきたのかを、現代民俗の事例も加えつつ、これまでの民俗学の成果から紹介していきます。事例をもとに、豊かな日本の民俗を学びます。	・民俗学の成果として報告された民俗の代表的事例や、民俗学の基礎的用語について把握・理解し、他者に適切に説明できるようになる。 ・民俗学の一般的な知識をふまえ、それらに対する自分自身の解釈や考察について適切に言語化できるようになる。	・民俗学の成果として報告された民俗の代表的事例や、民俗学の基礎的用語について把握・理解できるようになる。 ・民俗学の一般的な知識を持てるようになる。
KYO81-2-023	基礎	教養	文化人類学特論	選択	2・3	講義	1	3Q	双方向 遠隔	60			40			文化人類学の範囲と方法を知り、人間文化の多様性を学ぶ	文化人類学であつた「文化」は、俗に言われている文化(文化勲章などの用例にみられる文化)という狭い概念ではなく、人類が後天的に学習した行動パターンや言語、人工物の総体を幅広く指しています。授業では文化人類学の発展と展開、そしてその方法論を知ることで、人間文化の多様性をよりよく認識していきます。	・文化人類学の成果と方法論を理解し、他者に正しく説明することができる。 ・現在の社会を新たな視点から見直し、適切に言語化することができるようになる。	・文化人類学の成果と方法論を理解することができる。 ・その上で、現在の社会を新たな視点から見直すことができるようになる。
KYO81-2-024	基礎	教養	文学入門	選択	2・3	講義	1	3Q	双方向 遠隔	60			40			芸術としての文学	学生の皆さんが高校までの「国語」の授業で触れたものばかりが文学ではありません。文学は人類に普遍的な言語を使う芸術の幅広いひとつの領域です。小説や詩といった狭いジャンル分けにとられず、人類に普遍的な言語現象としての文学をこの授業では追求していきます。その試みのひとつとして、日本語で書かれた文学作品をていねいに読むことを学びます。	・文学の範囲、文学の読み方を知り、さらなる知識・理解の深化・拡張のための行動に結びつけることができる。 ・主体的に文学テキストに接近し、その特徴や魅力を論理的・説得的なかたちで言語化できるようになる。	・文学の範囲、文学の読み方を知ることができる。 ・そのことによって、主体的に文学テキストに接近し、その特徴や魅力を言語化できるようになる。

ナンバリング	段階	科目群	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学習目標	到達目標
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6				
KYO81-2-025	基礎	教養	歴史学	選択	2・3	講義	1	2Q	双方向 遠隔							歴史学を通じてみた現在	よく知られているように物語(story)と歴史(hisutory)は同根です。「古事記」も「平家物語」もかつては歴史でありました。近代以降、歴史学とは確実な資料の読解を通して時代の諸相を捉える学問となりました。この授業では、資料の多様性と妥当性、分析と読解の手法の概要を知ることによって、どのような「歴史」が浮かびあがってくるか、具体的な例に即しながら学びます。	・学問としての歴史学の方法を理解し、さらなる探求のために行動できるようになること。 ・その視座をもって近代・現代の社会を見直すことができ、それらを的確に言語化できること。	・学問としての歴史学の方法を理解できるようになる。 ・その視座をもって近代・現代の社会を見直すことができること。
KYO81-2-026	基礎	教養	人文地理学	選択	2・3	講義	1	4Q	双方向 遠隔							人間と空間・環境の関係を考える	人間は常に自然環境の中で生存し、地球上の多様な自然環境に即しつつ多様な文化を形成してきました。人文地理学はそうした人間と自然環境のかかわりの諸相を探求する学問であり、非常に多様な領域をカバーしています。そしてまたその方法論も絶えず時代とともに発展しています。この授業では人文地理学の歴史と現在を具体的な例に即しながら学びます。	・人文地理学の対象と方法の多様性を理解し、さらに知識・理解の探求に結びつけるようになること。 ・現在の自身の生きる環境を見直し、それらを適切に言語化することができるようになる。	・人文地理学の対象と方法の多様性を理解できるようになること。 ・そのうえで、現在の自身の生きる環境を見直すことができるようになる。
KYO81-2-027	基礎	教養	美学	選択	2・3	講義	1	2Q	双方向 遠隔							世界を概念により直感と感性によって認識することの意味を考える	学生の皆さんにとって「美学」というものは聞きなじみのない学問かもしれませんが、美学とは狭義では西洋哲学の一領域ではありますが、現在では多種多様な学問の知見を取り込みながら芸術の価値を考える幅広い学問領域となっています。この授業では、現在のアートと芸術を理論的に捉えるためには欠かせない美学の理論と実践を具体的に学んでいきます。	・美学・芸術学の諸理論を理解し、自分自身の制作・研究との関連づけで捉えることができるようになること。 ・みずから芸術にかかわる研究・制作を認識し直し、それを的確に言語化ができること。	・美学・芸術学の諸理論を理解できるようになること。 ・そのうえで、みずから芸術にかかわる研究・制作を認識し直すことができること。
KYO81-2-028	基礎	教養	哲学概論	選択	2・3	講義	1	3Q	双方向 遠隔							哲学は何を問いてきたか	哲学(philosophy=知を愛すること)は、自然科学、人文科学、社会科学という方々の種であります。この授業では古代ギリシアの哲学から中世、近代、現代にいたる西洋哲学が問題としてきたテーマを知るとともに、西洋以外の文化・文明がそれら西洋哲学が考え続けてきた問題をどう考えたかについても学んでいきます。	・哲学の基本的な概念と実践を知ることによって、みずからテキストを読み解くことができ、他者に適切に説明できるようになる。 ・学びをもとに、自身について、また自身の周囲の問題について問いかけができ、それらを的確に言語化できるようになること。	・哲学の基本的な概念と実践を知ることによって、みずからテキストを読み解くことができるようになる。 ・学びをもとに、自身について、また自身の周囲の問題について問いかけができるようになること。
KYO81-2-029	基礎	教養	宗教学概論	選択	2・3	講義	1	1Q	双方向 遠隔							社会における宗教の役割について考える	他者と自身の死を認識し、それについて思考することのできる人間にとって、宗教は文化・文明を形成する極めて重要な基本要素です。近代以降の宗教は世俗化によってその在り方を狭い領域に限定されてきましたが、本来、宗教は科学であり哲学であり思想であり道徳であり美学でした。したがって、宗教に対する認識なしに芸術・文化への理解はありえません。この授業では具体例に即しながら宗教現象の諸相について学びます。	・授業で培った方法論と知識をもって現在の宗教的状况を理解し、さらなる知識や理解の深化・拡張に結びつけることができる。 ・それらをふまえ、みずから宗教とどう関わるか、関わらざるを得ないかを反省的に捉え、適切に言語化することができるようになる。	・授業で培った方法論と知識をもって現在の宗教的状况を理解することができる。 ・それらをふまえ、みずから宗教とどう関わるか、関わらざるを得ないかを反省的に捉えることができるようになる。
KYO81-2-030	基礎	教養	心理学基礎	選択	2・3	講義	1	3Q	双方向 遠隔							生活やメンタルヘルスに役立つところの科学	この授業では、心の科学についての基礎的事項を学びます。心理学にはさまざまな分野、領域がありますが、ここではとくに大学生や若い世代に関連の深いメンタルヘルスに関するトピックや、思春期および青年期の心理などを取り上げます。自他の心を身近に感じながら理解を深めるとともに、心理学的な視点から社会や日常をどう捉えるかを養います。	・心の基本的知識について理解し、適切に他者に説明できるようになる。 ・心の科学の観点から、自分自身や他者、出来事について理解を深め、それらを的確に言語化できるようになる。 ・メンタルヘルスの視点から、自分自身を見直し、知識を役立て、具体的な対策や行動に結びつけることができる。	・心の基本的知識について理解できるようになる。 ・心の科学の観点から、自分自身や他者、出来事について理解を深められるようになる。 ・メンタルヘルスの視点から、自分自身を見直し、知識を役立てることができる。
KYO81-2-031	基礎	教養	環境科学	選択	2・3	講義	1	夏期集中								地球環境問題を科学的視点でとらえなおす	この100年余りでは人口は17億から77億に増え、この地球の大気や生態系すら根幹から大きく変わりつつあります。地球環境全体に大きな影響力をもつ存在である私たち人類の大きな歴史と最先端の科学的知見に基づいて統計データを参照しながら提示していきます。人類と地球の未来をデザインするためのビジョン構築を目的とします。<大気、SDGs、生態メカニズム、森林>	・温暖化やゴミ問題、水・食料危機など「地球環境問題」を総合的に捉え、さらに知識や理解を深めるための探求に結びつけることができる。 ・地球目線で歴史・文化遺産の価値を訴求してゆく新たな視点を獲得し、それらを他者に適切に伝えることができる。	・温暖化やゴミ問題、水・食料危機など「地球環境問題」を総合的に捉えることができる。 ・地球目線で歴史・文化遺産の価値を訴求してゆく新たな視点を獲得する。
KYO81-2-032	基礎	教養	生命科学	選択	2・3	講義	1	1Q 3Q								人間と自然の関係を生命という観点からとらえなおす	この授業では、動物や植物を中心に自然について学んでいきます。その多様な生存戦略や生物間の共通点・相違点を包括的に理解することで、人類や哺乳類の在り方だけが生命の在り方ではないことを知り、私たち自身がどのように世界を捉えているのかを再認識し、新たな視点の獲得に繋がります。<生命、人工生命 生態メカニズム ウイルスとの共生、菌 発酵>	・自然に関する知識を身につけ、個々の知識を関連づけて総合的な理解ができるようになる。 ・学んだ知識のほか、それをふまえた自分自身の考えや考察内容も含めて、人にわかりやすく伝えられるようになること。	・自然に関する知識を身につける。 ・学んだ知識について、人にわかりやすく伝える能力を獲得する。
KYO81-2-033	基礎	教養	心と身体の健康	選択	2・3	講義	1	1Q 3Q								生涯にわたり健康的な生活を送るための基礎的理解	自分のことでありながら、疎かになりがちな健康は、病気やケガをして初めてその重要性を感じるものです。自己管理を問われる現代社会において、心身ともにいかにバランスのとれた状態にいられるかは重要です。学生生活を送るにあたり、あらゆる角度から健康を考え、自分を知り、自身を守る基礎知識を学び、これからの生活に大いに役立ててもらいたいと思います。	・自分で自分を守る知識を修得し、自分自身の現状と関連付けることができる。 ・運動の必要性を知り、心身への意識改革ができ、具体的な行動に結びつけることができる。 ・自身に降りかかる身近な問題から健康を考え、さらにそれを言語化できるようになる。	・自分で自分を守る知識を修得する。 ・運動の必要性を知り、心身への意識改革ができるようになる。 ・自身に降りかかる身近な問題から健康を考えられるようになる。
KYO81-1-009	基礎	教養	生涯スポーツ演習	選択	1・2	演習	2	1Q 2Q 3Q 4Q								スポーツをとおした健康づくりとコミュニケーション力の向上	心身の健康は、快適な学生生活を送るうえでの基盤であり、学修の充実においても重要な要素です。この授業では、スポーツ活動を通して、心身の健康の維持・向上に取り組み、その意義について実践的に学びます。また、準備や片付けなども含めて、受講生同士がお互いに協力・貢献し合うことで、コミュニケーションの力や他者との関係性を深めます。さらには、スポーツの視点から、物事を見つめ思考する力を養うことを目指します。	・健康づくりのための運動・スポーツの意義について理解でき、他者に対して適切に伝えられるようになること。 ・スポーツ実践を通じた能力の可能性を広げ、そのことを言語化できるようになること。 ・他者理解とコミュニケーションを回り、準備・片づけを含め、受講生同士で協力し合うための他者への働きかけができるようになること。	・健康づくりのための運動・スポーツの意義について理解できるようになる。 ・スポーツ実践を通じた能力の可能性を広げられるようになる。 ・他者理解とコミュニケーションを回り、準備・片づけを含め、受講生同士で協力し合い、相互に貢献できるようになること。
KYO81-2-034	基礎	教養	ウェルネス演習	選択	2・3	演習	1	1Q 2Q 3Q 4Q								生涯にわたり健康的な生活を送るためのエクササイズ	心身の健康の維持・向上には、適度な運動を行うことが大切である。運動への意識はありつつも、「時間がない」などの理由から、実際には運動できていない人は多い。しかし、時間や空間の制約がある中でも、運動習慣づくりは十分可能である。この授業では、日常的に取り組めるストレッチ、筋力トレーニング、有酸素運動(ウォーキングやリズム運動など)などを実践的に学ぶ。自分自身に適した運動習慣づくりができるよう、知識的な学びも織り交ぜて取り組む。	・自分自身の現状を客観的に把握し、心身の健康の維持・向上のための運動に主体的に取り組めるようになること。 ・健康づくりのための運動習慣を身につけ、経過を自分で確認しながら進められるようになること。 ・実践を通して自分自身の可能性(知識も含む)を広げ、次の課題を明確にできること。	・心身の健康の維持・向上のための運動に主体的に取り組めるようになること。 ・健康づくりのための運動習慣を身につけること。 ・実践を通して自分自身の可能性(知識も含む)を広げること。
KYO81-2-035	基礎	教養	農演習1	選択	2・3	演習	2	1Q 3Q								暮らしを学ぶ一有機農法	土に触れることは、地球に触れることです。大地とのコミュニケーションです。人は大昔から、一粒の種から豊かな実りをもたらされることを知り、生命をつなぐ源が大地との交わりにあることに気づいていました。多くの文化や暮らしの作法は、こうした大地との交わりから始まっています。農作業は仮想現実ではありません。指先だけの作業ではありません。視覚や聴覚だけでなく、嗅覚や触覚、そして味覚など五感が総動員されます。天地自然を相手にする世界は、必ずしも人間の期待するとおりに展開しませんが、有機農法によるその農園で野菜の生長など持続的に観察する力と五感の領域を豊にする表現力の習得を目的とします。	・大地に触れることで五感を豊かにし、洞察する力を鍛え、適切に言語化することができる。 ・「農」「自然」についての知識と理解を深め、さらなる探求のための行動をとることができる。 ・農作業の体験から自ら課題を発見し、実現できる表現力を獲得し適宜振り返ることができる。	・大地に触れることで五感を豊かにし、洞察する力を鍛えることができる。 ・「農」「自然」についての知識と理解を深めることができる。 ・農作業の体験から自ら課題を発見し、実現できる表現力を獲得できる。

ナンバリング	段階	科目群	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学習目標	到達目標
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6				
KYO81-2-036	応用	教養	農演習2	選択	2・3	演習	2	2Q 4Q							暮らしを学ぶ＋加工と保存	土に触れることは、地球に触れることです。大地とのコミュニケーションです。人は大昔から、一粒の種から豊かな実りがもたらされることを知り、生命をつなぐ源が大地との交わりにあることに気づいていました。多くの文化や暮らしの作法は、こうした大地との交わりから始まっています。農作業は仮想現実ではありません。指先だけの作業ではありません。視覚や聴覚だけでなく、嗅覚や触覚、そして味覚など五感が総動員されます。天地自然を相手にする世界は、必ずしも人間の期待するとおりには展開しませんが、収穫物の加工と保存によってその農園で野菜の生長など持続的に観察する力と五感の領域を豊にする表現力の習得を目的とします。	・洞察する力を鍛え、そこから導き出された物事を適切に言語化することができる。 ・加工や保存方法について学ぶ中で、「農」「自然」についての知識と理解を深め、さらなる探求のための行動をとることができる。 ・農作業の体験から自ら課題を発見し、実現できる表現力を獲得し適宜振り返ることができる。	大地との交わりから、洞察する力を鍛えることができる。 「加工や保存方法について学ぶ中で、農」「自然」についての知識と理解を深めることができる。 農作業の体験から自ら課題を発見し、実現できる表現力を獲得できる。	
KYO82-1-037	入門	芸術	藝術立国論	必修	1	講義	1	1Q 2Q 4Q	双方向 遠隔						京都芸術大学を学ぶ	藝術立国、京都文芸復興という人間精神に根ざした本学においては、芸術の力によって平和を構築するという偉大な建学の精神が存在しています。他方で世界情勢に目を向けると、貧困、戦争、テロ、さまざまな社会課題、構造的暴力が顕在化してきています。その状況を直視し、芸術の力でなにが改善できるのか、本学で学ぶ意味について理解を深めます。	・平和について芸術とデザインがどのように関わっているかを理解できる。 ・『京都芸術大学を学ぶ』の熟読など事前事後学習を駆使しながら、学内の学びと平和との結びつきについて具体的な施策を打ち出し、実行することができる。	さまざまな視点から平和について学ぶことで、芸術やデザインなどの表現に携わるうえで社会的な構造や課題に対する考える力、疑問をもって探求することができる。	
KYO82-1-038	入門	芸術	芸術と心理1	選択	1・2	講義	1	1Q	双方向 遠隔						芸術を生み出し芸術を感じる人のこころを学ぶ	アートや芸術を生み出す背景にある「心」の作用を理解した上で、自らの創作に結びつけて考えることができるようになる。	・人間の心について、その基本的なはたらきと特性が説明できる。 ・心のはたらきについて、実例や研究例を手がかりに自分の心との向き合い方を知る。		
KYO82-1-039	基礎	芸術	芸術と心理2	選択	1・2	講義	1	2Q	双方向 遠隔						進化の視点から、芸術するこころの基盤について考える	絵を描くこころはなぜ生まれたのでしょうか？ デッサンはなぜむずかしいのでしょうか？ その背景には進化の過程でヒトが手にいれた認知的な特性が関わっています。この授業では、まず「見る」と「描く」という行為を進化の視点からひもとして理解を深めていきます。さらにその理解をもとにして、芸術を表現し、鑑賞するこころの基盤について考えます。	・芸術を表現し、鑑賞する心の基盤とは何かを理解し、自らの創作に結びつけて考えることができるようになる。	・「見る」と「描く」をつなぐ認知のしくみについて理解して、デッサン時の見方のコツをつかめるようになる。 ・人間の認知のしくみを理解したうえで、各自の表現に向きあえるようになる。 ・課題を通して、自分の気づき「！」を育て、問い「？」をたてる癖をつけることで、アクティブな学びの姿勢を身につける。	
KYO82-1-040	入門	芸術	芸術と自然1	選択	1・2	講義	1	3Q	双方向 遠隔						サイエンスの視点から、自然を探索する	「画家は、自然を師としなくてはならぬ」とは、レオナルド・ダ・ヴィンチの言葉ですが、古今東西のさまざまな表現者が、自然に学ぶことの重要性について語っています。ただ漠然と自然を眺めるのではなく、自然を「観る」解像度を上げるには、自然のこころを知る必要があります。この講義では、自然科学者をゲストに招き、問いを持ち、探索するサイエンスの視点について学びます。	・自然の持つ特性を理解し、興味を持って観察することができるようになる。ととも、サイエンスの視点を持って自らの創作に結びつけて考えることができるようになる。	・身近な自然に目を向ける姿勢を身につける。 ・自ら問いを持ち、その背景について探索するサイエンスの視点を身につける。	
KYO82-1-041	基礎	芸術	芸術と自然2	選択	1・2	講義	1	4Q	双方向 遠隔						アートの視点から、自然を表現する	「ただ1人の師を選ぶのだ。その師は自然である」とは、画家のレンブラントの言葉ですが、古今東西のさまざまな表現者が、自然に学ぶことの重要性について語っています。この講義では、アートやデザインの視点から、自然や自然科学の知識を活かした芸術活動をしているアーティストや専門家をゲストに招き、芸術表現と自然との関わりについて考えます。	アーティストたちが持つ自然に対する感性を理解するとともに、それらを自らの創作に結びつけて考えることができるようになる。	自然や自然科学の知識を活かしているアートやデザインについて学び、新たな芸術表現について考える。	
KYO82-1-042	入門	芸術	芸術と社会	選択	1・2	講義	1	3Q	双方向 遠隔						芸術による社会変革の可能性を考える	“芸術”が“社会”そのものに与える影響を考察していきます。芸術が持つ力やその可能性が社会にどのような影響を与えるのか、社会の側の意識がどのように芸術表現に影響しているのか、実際に社会で芸術表現活動を行っている事例を紹介し、関わる第一人者から話をうかがいながら、芸術表現そのものの可能性を参加者とともに考える講義群です。	社会における芸術表現活動の意味を理解することができる。 当日の授業内容を復習を行うことで、後日の授業を円滑に受講することができ、到達目標を上回ることにつながる。	1)芸術が社会、社会が芸術に与える影響を考察することができる。 2)芸術と社会、それぞれに対する新しいイメージを概念化できる。 3)両語が交わる新しい概念を言語化/可視化できる。	
KYO82-1-043	入門	芸術	芸術と文化	選択	1・2	講義	1	2Q	双方向 遠隔						芸術表現活動における文化的意義を考察する	“芸術”が“文化”そのものに与える影響を考察していきます。芸術の持つ力やその可能性が文化にどのような影響を与えてきたのか、第一線で活躍されている芸術表現活動を紹介し、そこから考えられる芸術と文化の概念や意味等の理解を深めながら、現代におけるアートやデザインの意義等を参加者とともに考える講義群です。	文化における芸術表現活動の意味を理解することができる。当日の授業内容を復習を行うことで、後日の授業を円滑に受講することができ、到達目標を上回ることにつながる。	1)芸術が文化、文化が芸術に与える影響を考察することができる。 2)芸術と文化、それぞれに対する新しいイメージを概念化できる。 3)両語が交わる新しい概念を言語化/可視化できる。	
KYO82-1-044	入門	芸術	芸術と倫理	選択	1・2	講義	1	4Q	双方向 遠隔						芸術にとって倫理とはなにか	“芸術”あるいは“倫理”は、それぞれ大学でもよく見聞きする言葉ですが、その頻度と呼応するように、多重的な解釈のある用語でもあります。この授業では、“芸術”“倫理”それぞれの言葉の多義性をその文脈に寄り添いながら紹介していきます。さらに、そうした理解に基づき、この二つの概念・用語が現在どのように関わっているのかについて参加者とともに考えていきます。	芸術と倫理の関わりを理解できる。 当日の授業内容を復習を行うことで、後日の授業を円滑に受講することができ、到達目標を上回ることにつながる。	1)芸術と倫理、それぞれの多義的な解釈を理解できる。 2)芸術と倫理、それぞれに対する新しいイメージを概念化できる。 3)両語が交わる新しい概念を言語化/可視化できる。	
KYO82-2-054	基礎	芸術	西洋の美術初歩	選択	2・3	講義	1	1Q							これだけは知っておきたい西洋の美術	西洋の代表的な美術作品やその作品の背景を知る、これは芸術を専門とする者にとっての教養です。代表的な西洋の美術作品を取り上げて検討していきます。「代表的」とは単に有名作品ということではなく、制作された当時から、現代においても、多くの影響を与え続けるような作品を指します。代表的な作品を知り、学生自身の制作や研究を進める上でのヒントを得られます。	代表的な西洋の美術作品の斬新な点や後世の作品への影響力について理解し、その知識を応用して自身の研究・制作に生かす視点をもつことができる。授業後、配布資料で復習を行うことで、後日の授業を円滑に受講することができ、到達目標を上回ることにつながる。	代表的な西洋の美術作品の斬新な点や後世の作品への影響力について説明できる。	
KYO82-2-055	基礎	芸術	京都の美術初歩	選択	2・3	講義	1	3Q							これだけは知っておきたい京都の美術	日本美術史の入門として京都に実在する作品を中心に学びます。平安時代以来1200年間、都であり続けた、文化の発信地である京都発の作品や作家を通して、日本の美術工芸の歴史を学びます。京都府内に現存する、平安時代から江戸時代までの京都発の美術工芸作品の特長を知り、学生自身の制作や研究を進める上でのヒントを得られます。	平安時代から江戸時代までの代表的な京都の美術作品における斬新な点や後世の作品への影響力について理解し、その知識を応用して自身の研究・制作に生かす視点をもつことができる。授業後、配布資料で復習を行うことで、後日の授業を円滑に受講することができ、到達目標を上回ることにつながる。	平安時代から江戸時代までの代表的な京都の美術作品における斬新な点や後世の作品への影響力について説明できる。	
KYO82-2-056	基礎	芸術	色彩論1	選択	2・3	講義	1	夏期集中							色彩を感じ、「色」を科学的に考える	世界は色彩に満ちていて私たちは色に包まれて生きているように感じられます。しかし、その色はどこにあるのでしょうか。色彩には広く多面的なアプローチがあり、だからこそ謎や魅力が尽きないのだと言えます。このような色彩の世界の広範さを踏まえ、色彩を感じ「色」を科学的に考え、美術に関わる色彩の見方を原初的なところから考えていきます。	配色理論や色彩構成論を理解することができる。 当日の授業内容を復習を行うことで、後日の授業を円滑に受講することができ、到達目標を上回ることにつながる。	自己と世界の出会いの中で、色彩をその都度(その場所、その時間でいつも新しく)発生する現象であると捉え、感じられるようになる。 色彩に関する基礎知識を習得すると同時に色彩を考察するアプローチの多面性を理解し、そこから各自の研究の糸口を発見できるようになる。	

ナンバリング	段階	科目群	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学修目標	到達目標
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6				
KYO82-2-057	基礎	芸術	色彩論2	選択	2・3	講義	1	夏期集中							「色」を科学的に捉え、表現する	世界は色彩に満ちていて私たちは色に包まれて生きていくように感じられます。しかし、その色はどこにあるのでしょうか。色彩には広く多面的なアプローチがあり、だからこそ謎や魅力が尽きないのだと言えます。このような色彩の世界の広範さを踏まえ、「色」を科学的に捉え表現し、美術に関わる色彩の見方を原初的なところから考えていきます。	配色理論や色彩構成論を理解し、表現することができる。当日の授業内容を復習を行うことで、後日の授業を円滑に受講することができる。到達目標を上回ることに繋がる。	自己と世界の出会いの中で、色彩をその都度(その場所、その時間でいつも新しく)発生する現象であると捉え、感じられるようになる。色彩に関する基礎知識を習得すると同時に色彩を考察するアプローチの多面性を理解し、そこから各自の研究の糸口を発見でき、自分の言葉で表現できる。	
KYO82-1-045	基礎	芸術	美術史1	選択	1・2	講義	1	1Q 3Q	双方向 遠隔						日本・中国の美術の基礎的な歴史を学ぶ	人類は有史以来、自分たちの道具や衣服を、あるいは住居や都市を、さらには自分自身の身体や環境や生命を、何らかの方法でデザインし、造形化しようと試みてきました。本講義では、造形に向けられた人々の意志が交錯する場の一つとして、日本、中国の美術を取り上げ、その概要を通史的に学ぶことで、各地域・各時代の美術の基礎的な知識を学び、代表的な作例の魅力を理解できる能力を身につけることができます。	日本、中国の美術の流れを通史的にたどることで、美術史における基本的な知識を修得することができる。当日の授業内容を復習を行うことで、後日の授業を円滑に受講することができる。到達目標を上回ることに繋がる。	日本、中国の美術の流れを通史的にたどることで、美術史における基本的な知識を修得し、その知識を活用して美術史上重要とされる作品の価値を理解し、言葉で説明することができるようになる。	
KYO82-1-046	基礎	芸術	美術史2	選択	1・2	講義	1	2Q 4Q	双方向 遠隔						ヨーロッパの美術の基礎的な歴史を学ぶ	人類は有史以来、自分たちの道具や衣服を、あるいは住居や都市を、さらには自分自身の身体や環境や生命を、何らかの方法でデザインし、造形化しようと試みてきました。本講義では、造形に向けられた人々の意志が交錯する場の一つとして、ヨーロッパの美術を取り上げ、その概要を通史的に学ぶことで、各地域・各時代の美術の基礎的な知識を学び、代表的な作例の魅力を理解できる能力を身につけることができます。	ヨーロッパの美術の流れを通史的にたどることで、美術史における基本的な知識を修得することができる。当日の授業内容を復習を行うことで、後日の授業を円滑に受講することができる。到達目標を上回ることに繋がる。	ヨーロッパの美術の流れを通史的にたどることで、美術史における基本的な知識を修得し、その知識を活用して美術史上重要とされる作品の価値を理解し、言葉で説明することができるようになる。	
KYO82-1-047	基礎	芸術	美術論1	選択	1・2	講義	1	1Q 3Q	双方向 遠隔						19世紀の西洋美術論の日本における受容と展開	「美術」という言葉はいつ誕生し、当初は何を指していたのでしょうか。そして現代では何を意味するのでしょうか。多方面から「美術」について考察していきます。19世紀西洋の美術論の日本における受容と展開を、代表的な美術論・絵画論、書簡などをとらえて考察していきます。それぞれの美術論において理想とされた「形」を理解し、その理論が誕生した社会・文化を知り、これからの「美術」の在り方を考察する一助とします。	日本で受容された19世紀の重要な西洋の美術論の主旨と代表的な作品について理解し、その知識を応用して自身の研究・制作に生かす視点をもつことができる。授業後、配布資料で復習を行うことで、後日の授業を円滑に受講することができ、到達目標を上回ることに繋がる。	19世紀の日本において受容された重要な西洋の美術論の主旨を理解し、代表的な作品について自身のことばで説明できる。	
KYO82-1-048	基礎	芸術	美術論2	選択	1・2	講義	1	2Q 4Q	双方向 遠隔						20世紀前半の西洋美術論の日本における受容と展開	「美術」という言葉はいつ誕生し、当初は何を指していたのでしょうか。そして現代では何を意味するのでしょうか。多方面から「美術」について考察していきます。20世紀西洋の美術論の日本における受容と展開を、代表的な美術論・絵画論、書簡などをとらえて考察していきます。それぞれの美術論において理想とされた「形」を理解し、その理論が誕生した社会・文化を知り、これからの「美術」の在り方を考察する一助とします。	日本で受容された20世紀の重要な西洋の美術論の主旨と代表的な作品について理解し、その知識を応用して自身の研究・制作に生かす視点をもつことができる。授業後、配布資料で復習を行うことで、後日の授業を円滑に受講することができ、到達目標を上回ることに繋がる。	20世紀の日本において受容された重要な西洋の美術論の主旨を理解し、代表的な作品について自身のことばで説明できる。	
KYO82-2-058	基礎	芸術	現代アート1	選択	2・3	講義	1	1Q 3Q	双方向 遠隔						現代アート理解:20世紀前半-1960年代頃まで	二度の世界大戦を経験し、その後は人と物と情報が激しく行き交うようになった20世紀は美術において最も大きな変革のあった時代とされています。また21世紀もデジタル社会となり、生活もアート環境も猛スピードで変貌しています。この授業では主に20世紀初頭から1960年代頃までの主要なアートの歴史を概観し、その背景にある思想や社会を踏まえて考察します。	20世紀初頭から1960年代までの美術論の趣旨と代表的な作家、作品について理解し、その知識を応用して自身の研究・制作に生かす視点と知識を持つことができる。当日学習した授業を復習し、さらに文献など掘り下げて調べ、展覧会等美術の作品を調査することにより、後日の授業を円滑に受講することができ、到達目標を上回ることに繋がる。	20世紀以降の美術史において重要な作家、作品、運動や様式およびその背景にある思想や社会についての知識を得る。それにより、受講生各自が現代に至るまでのアートの歴史を理解し、言葉で説明できるようになる。また、過去の作家たちについて調べ、問いを立て、過去の作家や作品と対話をすることで、受講生自身の創作活動や研究を深められるようになる。	
KYO82-2-059	応用	芸術	現代アート2	選択	2・3	講義	1	2Q 4Q	双方向 遠隔						現代アート理解:1970年代以降、現代までの美術の歴史	二度の世界大戦を経験し、その後は人と物と情報が激しく行き交うようになった20世紀は美術において最も大きな変革のあった時代とされています。また21世紀もデジタル社会となり、生活もアート環境も猛スピードで変貌しています。この授業では主に1970年代以降、現在に至るまでの主要なアートの歴史を概観し、その背景にある思想や社会を踏まえて考察します。	1970年代から現代までの美術論の趣旨と代表的な作家、作品について理解し、その知識を応用して自身の研究・制作に生かす視点と知識を持つことができる。当日学習した授業を復習し、さらに掘り下げて文献調査や展覧会等美術の作品を調査することにより、後日の授業を円滑に受講することができ、到達目標を上回ることに繋がる。	1970年代以降の美術史において重要な作家、作品、運動や様式およびその背景にある思想や社会についての知識を得る。それにより、受講生各自が現代に至るまでのアートの歴史を理解し、言葉で説明できるようになる。また、過去の作家たちについて調べ、問いを立て、過去の作家や作品と対話をすることで、受講生自身の創作活動や研究を深められるようになる。	
KYO82-2-060	基礎	芸術	工芸デザイン論1	選択	2・3	講義	1	1Q 3Q	双方向 遠隔						19世紀末からバウハウス誕生までのデザイン史	人間中心主義によって世界を捉えるようになった近代化社会以降、バウハウスが出現するまでのデザイン史について概観します。産業革命以降、近代社会が科学技術を発展させていくなかで、生み出されてきた思想や社会制度とデザインの関わりについて学びます。デザイン史の流れを知り、デザインリテラシーを高めることを目的としています。	近代化社会以降、バウハウスが出現するまでのデザイン史の歴史を知り、デザインを社会と生活の問題として考え、自身の研究や制作に生かす視点と知識を得ることができる。当日学習した授業を復習し、さらに掘り下げて調べることにより、後日の授業を円滑に受講することができ、到達目標を上回ることに繋がる。	近代化社会以降、バウハウスが出現するまでのデザイン史に関する重要な作家、作品、運動や様式およびその背景にある思想や社会についての知識を得る。それにより、受講生各自が現在の社会におけるデザインの成り立ちを理解し、言葉で説明できるようになる。さらに、これからのデザインの役割について、幅広く思考するためのツールとして活用できるようになる。	
KYO82-2-061	基礎	芸術	工芸デザイン論2	選択	2・3	講義	1	2Q 4Q	双方向 遠隔						バウハウス以降のモダンデザインの歴史	人間中心主義によって世界を捉えるようになった近代化社会がより成熟し、大量生産が可能になってきた時代に誕生したバウハウス以降のモダンデザインの歴史について概観します。社会の近代化に伴い生み出されてきた思想や社会制度とデザインの関わりについて学びます。デザイン史の流れを知り、デザインリテラシーを高めることを目的としています。	バウハウス以降のモダンデザインの歴史を知り、デザインを社会と生活の問題として考え、自身の研究や制作に生かす視点と知識を得ることができる。当日学習した授業を復習し、さらに掘り下げて調べることにより、後日の授業を円滑に受講することができ、到達目標を上回ることに繋がる。	バウハウス以降のデザイン史に関する重要な作家、作品、運動や様式およびその背景にある思想や社会についての知識を得る。それにより、受講生各自が現在の社会におけるデザインの成り立ちを理解し、言葉で説明できるようになる。さらに、これからのデザインの役割について、幅広く思考するためのツールとして活用できるようになる。	
KYO82-2-062	基礎	芸術	デザイン概論	選択	2・3	講義	1	2Q	双方向 遠隔						「デザイン」とは何か?	モノからコト、そして環境へと、20世紀初頭に普及し始めた「デザイン」のあり方は、その時代や社会と深く関わりながら、歴史の中で多彩な変化を遂げてきました。本授業ではこれからのデザインを考える上で必要とされる歴史や文化を振り返りながらその知見を広げ、受講生各自の制作、研究が深化していくことを目的としています。	近代以降のデザインの歴史を知り、デザインを社会と生活の問題として考え、自身の研究や制作に生かす視点と知識を得ることができる。当日学習した授業を復習し、さらに文献や実物を掘り下げて調べることにより、後日の授業を円滑に受講することができ、到達目標を上回ることに繋がる。	デザインの多様性について理解を深め、現代社会における物事の問題把握や解決方法を模索し、言語化、提案ができるようになる。	
KYO82-2-063	基礎	芸術	表象文化特論	選択	2・3	講義	1	1Q 3Q	双方向 遠隔						視覚文化を理論的に考察するために基本的概念を学ぶ	映画やアニメーション、ファッションといったさまざまな視覚文化に対して、表象文化論やメディア論などの観点から考察する視点を養うことを目的としています。各視覚メディアはこれまで、それぞれの特性をふまえた多様な表現方法を用いて、数多くの作品を生み出してきました。具体的な実例とおおてさまざまな理論や研究、歴史などについて解説し、各視覚メディアの特性について検討します。	視覚メディアの特性を学ぶことで、視覚文化をめぐるさまざまな考え方を理解できる。また、視覚文化について多角的に考察できる。当日学習した授業を復習し、さらに文献や実物を掘り下げて調べることにより、後日の授業を円滑に受講することができ、到達目標を上回ることに繋がる。	・視覚文化をめぐる様々な考え方を理解し、文化事象について思考することができるようになる。 ・視覚メディアの特性を学ぶ中で、視覚文化について多角的に考察できるようになる。 ・これら思考・考察の結果を言語によって明晰に表現できる。	
KYO82-2-064	基礎	芸術	写真概論	選択	2・3	講義	1	3Q	双方向 遠隔						「写真」というメディアムについて考える	美術に限ったことではなく、日常生活の中で必ずどこかで目にする「写真」。スマートフォンやデジタルカメラ、SNSの普及によって、写真の特性や作品の意味、そして、その利用方法や表現方法は無限の広がりを見せ始めています。この授業では、そういった写真の基礎知識や技術を習得し、受講生のみならず、皆さんがこれから生み出していく作品や研究に役立つ、一つのツールとなることを目指します。	・当日学習した授業を復習し、さらに文献や実物を掘り下げて調べることにより、後日の授業を円滑に受講することができ、到達目標を上回ることに繋がる。 ・学習した知識・技術を具体的な施策をもって使用し、自身の制作・研究に反映させることができる。	写真のメカニズムや撮影に関する講義、および作家や作品について考える機会を通して、写真というメディアムについての基礎知識を身につけ、制作、研究に活用できるようになる。	
KYO82-2-065	基礎	芸術	美術解剖学	選択	2・3	講義	1	3Q	双方向 遠隔						骨や筋肉から身体の構造を学ぶ	リアルな存在感を感じさせる人間を描こうとするのなら、物質的存在としての人体について学ぶ必要があります。この授業では骨学と筋学を中心に身体の構造を知り、性差や年齢差など身体の差異を学び、身体を視る確かな眼を養うとともに、身体表現の可能性を考察します。人間をテーマにした芸術作品を作る際、必要となる「人体の基礎知識」を学ぶための科目です。	骨学、筋学を主にした美術解剖学の知識を得ることで、身体構造を理解し、身体表現の可能性を示すことができるようになる。	骨学・筋学を通して身体の構成と機構を知り、身体の内部構造を意識する観察眼を習得する。身体の計測実習に取り組み、人体のプロポーションについて男女差や個体差を理解する。美術解剖学的知識を基に身体美を探索する力を養う。	

ナンバリング	段階	科目群	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学修目標	到達目標
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6				
KYO82-2-066	基礎	芸術	素材論	選択	2・3	講義	1	3Q							「素材」を科学的、歴史的に考える	画材店で購入できる既製品は、インスタントな便利さと一定の質を担保してくれます。一方で、カスタマイズの余地はなく不自由さの引き換えでもあります。もしも既製品より高品質で安価な自分好みの支持体を用意することができれば、自分の表現をより豊かに昇華させることが可能となります。教員が自身の制作と研究経験から生み出し、学生への指導を基に設計された誰でも失敗しないレンドを実演します。私たちは消費者でなく表現者であることを自覚し、表現に適した画材を追求することを目的とします。	膠やカゼインなどの展色材を中心に東洋と西洋の両用の画材について俯瞰した知識を得ることができる。素材と化学の知識を得ることで創造性の基盤をつくり、作品の制作、研究に適用できるようになる。	ルネサンスの工房に倣いさまざまな絵画素材の特性と表現技法の可能性を把握することができるようになります。日本画(東洋画)と西洋画の両方を美術史と画材史で俯瞰してみることで、自身の制作や研究にフィードバックさせることができるようになります。絵画技法材料を学ぶことは、作品鑑賞において「制作者の意図する技法材料の必然性」をより深く豊かに読み解くことができるようになります。	
KYO82-2-067	基礎	芸術	空間論	選択	2・3	講義	1	4Q							「空間」を科学的に考え、展示空間の構成力を養う	空間をどのように捉えるかといった基礎概念を科学的に理解し、展示手法の具体的な事例を中心に実践的に学びます。空間をどのように理解し、測定し、解析するのか、その複雑性と多様性を理解し、これらの知識をもとにして様々な展示手法の具体的な事例を中心に、実践的な学習を行います。機能面や空間イメージの演出方法等を考慮しながら、その場所の特徴を最大限に活かす能力を身につけ、空間を活用し、各要素が調和する全体像を見つけ出す構成力を養います。	場所の特徴を最大限に活かす能力を身につけ、空間を活用し、各要素が調和する全体像を見つけ出す構成力を養うことができる。当日学習した授業を復習し、さらに文献や実物を掲げ上げて調べることにより、後日の授業を円滑に受講することができ、到達目標を上回ることにつながる。	空間を構成する基礎的な知識や技術を修得し、効果的な展示表現や企画を行うことができるようになる。	
KYO82-2-068	基礎	芸術	芸術哲学特論	選択	2・3	講義	1	1Q	双方向 遠隔					60	西洋の哲学と芸術の流れと枠組みの基礎的理解	「芸術とは何か」「哲学とは何か」といった基礎的な問いから出発し、最終的には現代の知の地平において芸術を考え論ずる能力を身につけることを目指します。その過程で、哲学・美学の基本的な用語と枠組を修得し、主に西洋の哲学・美学の流れを概括するとともに、それを非西洋の視点から相対化し、現代の知の地平のなかに位置づけます。	哲学と芸術の流れを大きくつかみ、基本的な用語と枠組を正しく理解することができる。それによって芸術について(主観的にではなく)客観的に考え論ずる能力を身につけることができる。	古代から現代にいたる哲学と芸術の流れを大きくつかみ、基本的な用語と枠組を正しく理解すること、それによって芸術について(主観的にではなく)客観的に考え論ずる能力を身につけることを目標とする。	
KYO82-2-069	基礎	芸術	音と芸術特論	選択	2・3	講義	1	3Q	双方向 遠隔					60	西洋音楽を芸術史・文化史の中で考える	西洋音楽は音を合理的に体系化することで世界に広まりました。アメリカン・ポップスはもちろん、J-POPもK-POPも完全に西洋音楽に含まれます。こうした意味で無視することのできない西洋音楽の論理と歴史を古楽やクラシック音楽から現代音楽やポピュラー音楽にいたるまでざっとフオロした上で、その外側にあるもっと広い音の世界にも視野を広げ、それと芸術との関係を考えます。授業は実技は伴いませんが、視聴覚資料を多用しながら進めます。	西洋の音楽史に関する一般的な知識を習得した上で、その枠を超え、音をめぐる芸術の諸相を知ることができる。	西洋の音楽史に関する一般的な知識を習得した上で、その枠を超え、音をめぐる芸術の諸相を知ることが目標とする。	
KYO82-2-070	基礎	芸術	民族音楽	選択	2・3	講義	1	4Q						60	世界の音楽を理解する	日本の民謡をはじめ、世界各国にはそれぞれの民族が伝承してきた音楽が存在しています。この授業では、それらの音楽を鑑賞しながら、その成り立ちや旋律やリズムについて理解を深めていきます。さらに、それらを生み出す土壌となった文化や生活様式等と音楽の相互関係、そしてそれぞれの社会の多様性を学んでいきます。西洋音楽とは異なる音と芸術が地球上に数多く存在することを深く知ることができるでしょう。	文化や生活様式等との相互関係、それぞれの社会の多様性を理解することができる。学習した授業を復習し、さらに文献や実物を掲げ上げて調べることににより、後日の授業を円滑に受講することができ、到達目標を上回ることにつながる。	世界の音楽について知り、文化や社会とのつながり、多様性を理解できるようになる	
KYO82-1-049	入門	芸術	デッサン演習1	選択	1・2	演習	2	1Q 3Q							観察力を鍛える・形の構造を捉える。基本形体と静物を描く	鉛筆の削り方から始まる初歩的な鉛筆の扱いから鉛筆の濃淡による明暗調子のつくり方と理解、形の構造と量感関係、プロポーションの捉え方、構図について基本的なデッサンの手法を修得します。静物をモチーフに球体、円柱、立方体など基本的形体を捉えて描くことを目的として、形体の構造的な見方・捉え方を探りながら創造的な観察力を養うことを目標とします。	基本形体を基に形を構造で捉え、描き続ける見方を修得できるようになる。更に繰り返し球体、円柱などの基本形体のモチーフを描くことで観察力を高めることができる。	基本形体の構造を捉え、把握して描くことができる観察力を修得することができる。デッサンの基本的な手法である明暗調子、量感表現、比例比較、構図について理解し修得することができる。	
KYO82-1-050	基礎	芸術	デッサン演習2	選択	1・2	演習	2	2Q 4Q							観察力や構造理解の更なる向上を目指し、人体と石膏像を描く	デッサンは、描いた結果ではなく、いかに対象のかたちに迫ることができるかというその探求のプロセスが重要です。この授業では、人体、石膏像等の有機的形体を捉えるために基本形体を把握し、見方(観察力)と捉え方(理解・描写力)を更に鍛えデッサン力を養っていきます。そのような過程の中で、人体と石膏像の形体の構造を理解し表現することを目標とします。	石膏像を通じて、人体の構造を理解し、有機的な人体の構造を捉える描写力を修得できるようになる。更に継続的に人体クロッキーを実践し、描写力を高めることができる。	人体や石膏像からそれらの構造を捉え、把握して描くことができる観察力を修得することができる。デッサンの基本的な手法である明暗調子、量感表現、比例比較、構図について理解し修得することができる。人体のプロポーションと構造を正確に捉えて描くことができるようになる。	
KYO82-1-051	応用	芸術	デッサン演習3	選択	1・2	演習	2	夏期 集中							観察力や構造理解の集大成として、人間を(人体ヌード)を描く	どのような表現領域であれ、本格的に携わろうとすれば、人体の表現に関わることから逃げてはいけません。人体の表現を鍛えるためには基本形体を知覚し、形を構造的に捉えて描く探究のプロセスが重要です。人体の骨格等の構造を知り、有機的形体の美しさを持つ人体を持続的に観察し捉え、ヌードデッサンを通じて形体の構造理解と表現力を養うことを目標とします。	人体の構造を理解し、有機的な人体の構造を捉える描写力と表現力を修得できるようになる。更に継続的に人体クロッキーを実践し、観察力を高めることができる。	人体の構造を捉え、把握して描くことができる観察力を修得することができる。デッサンの基本的な手法である明暗調子、量感表現、比例比較、構図について理解し修得することができる。人体のプロポーションと構造を正確に捉えて描くことができるようになる。	
KYO82-1-052	入門	芸術	芸術基礎演習1	選択	1・2	演習	2	1Q 3Q						50	IllustratorとPhotoshopの基礎を知る	Adobe IllustratorとPhotoshopの基礎を学びます。デザイン基礎の習得は「つくる」こと、そしてグラフィックデザインは「印刷(原寸で出力)」してこそ本来の意味を持っています。本授業では印刷には欠かせないPCソフトのIllustratorを中心に「シンボルマークとロゴタイプ」や「DM及びフライヤー、ポスターなどの「紙面構成」を、Photoshopでは画像の扱い方をはじめとしたグラフィックデザインの基礎を学びます。	デザイン制作に必要なアプリケーションの基本操作とデザイン基礎を身につけることができる。授業後に配布される資料で復習を行うことで、後日の授業を円滑に受講することができる。到達目標を上回ることにつながる。	アプリケーションの基本操作を理解できるようになる。グラフィックデザインの基礎を理解できるようになる。	
KYO82-1-053	基礎	芸術	芸術基礎演習2	選択	1・2	演習	2	2Q 4Q						30	Illustratorを中心にグラフィックデザインの基礎を学ぶ	学生の皆さんがふだん何気なく目にしていくポスターや雑誌のページというものは、実に多くの構成要素によって成り立っています。この授業では、紙面構成の基本、文字、レイアウト、グリッドシステムを軸に、グラフィックデザインの基礎を学びます。言葉を記号化した文字を扱うタイポグラフィと印刷を前提としたグラフィックデザインに必要な知識と技術を習得します。	紙面構成における基本的な配置方法と文字組を理解できるようになる。指定されたAdobeオンデマンド教材の項目内容を理解することで、後日の授業を円滑に受講することができ、到達目標を上回ることにつながる。	タイポグラフィとグラフィックデザインの基礎知識を理解できるようになる。紙面上の空間意識を高め、適切な文字の選択とレイアウトができるようになる。	
KYO82-2-071	応用	芸術	芸術基礎演習3	選択	2・3	演習	2	2Q 4Q						50	Adobe XDを中心としたWEBデザイン学ぶ	本授業では、WebデザインにおけるUI/UXの基礎的な知識を身につけながら、具体的なWebサイト設計を経験し、専門的なWebデザインに関する教養を深めていきます。Webデザインの学習プロセスでは主にAdobe XDを使用し、各種グラフィックツールとの連携に関する基礎を学びながら、新たな視点で情報を捉える力を身につけます。これにより、受講生各自の制作や研究に役立てることができます。	Webデザインの制作過程を理解できるようになる。連携する各種グラフィックツールの基礎を自学自習を行うことで、後日の授業を円滑に受講することができ、到達目標を上回ることにつながる。	Webデザインの基礎を理解し、Webサイトのプロトタイプを作成することができる	
KYO82-3-088	発展	芸術	芸術特別演習1	選択	3・4	演習	2	1Q 3Q							アート領域ゼミ	3年生以上を対象とした「芸術」に関する学びを深めるゼミ。過去を探究する学びと、アート・デザイン思考による現在から未来を構想する学びの両軸により、答えが確定していない新たな問いを見つけること、そして、その問いを解決するための実践力の育成を目指します。ゼミを担当する教員のテーマにそってクラスを選ぶことができます。	豊富な知識を身につけることで美術・芸術についての自身の考えを持つことができる。美術・芸術について、より多くの知識を得るための自学自習により、到達目標以上の幅を広げることができる。	知識として得た美術・芸術作品を土台として、新たな作品を創造し、制作者・研究者としての幅を広げられるようになる。	

ナンバリング	段階	科目群	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学習目標	到達目標
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6				
KYO82-3-089	発展	芸術	芸術特別演習2	選択	3・4	演習	2	2Q 4Q					40	60	アート領域ゼミ2	3年生以上を対象とした「アート」に関する学びを深めるゼミ。過去を探究する学びと、アート・デザイン思考による現在から未来を構想する学びの両軸により、答えが確定していない新たな問いを見つけること、そして、その問いを解決するための実践力の育成を目指します。ゼミを担当する教員のテーマにそってクラスを選ぶことができます。	豊富な知識を身につけることで造形美術についての自身の考えを持つことができる。 造形美術について、より多くの知識を得るための自学自習により、到達目標以上の幅を広げることにつながる。	知識として得た造形美術作品を土台として、新たな作品を創造し、制作者・研究者としての幅が広がるようになる。	
KYO82-3-090	発展	芸術	デザイン特別演習1	選択	3・4	演習	2	1Q 3Q					40	60	デザイン領域ゼミ1	3年生以上を対象とした「デザイン・デザイン思考」に関する学びを深めるゼミ。過去を探究する学びと、アート・デザイン思考による現在から未来を構想する学びの両軸により、答えが確定していない新たな問いを見つけること、そして、その問いを解決するための実践力の育成を目指します。ゼミを担当する教員のテーマにそってクラスを選ぶことができます。	「デザイン・デザイン思考」のできる役割を理解し、それらがどのように機能するかを試みることができるようになる。 授業後に配布される資料で復習を行うことで、後日の授業を円滑に受講することができ、到達目標を上回ることに繋がる。	「デザイン・デザイン思考」を用いて様々なメディアをデザインし、機能させることができるようになる。	
KYO82-3-091	発展	芸術	デザイン特別演習2	選択	3・4	演習	2	2Q 4Q					40	60	デザイン領域ゼミ2	3年生以上を対象とした「デザイン」に関する学びを深めるゼミ。過去を探究する学びと、アート・デザイン思考による現在から未来を構想する学びの両軸により、答えが確定していない新たな問いを見つけること、そして、その問いを解決するための実践力の育成を目指します。ゼミを担当する教員のテーマにそってクラスを選ぶことができます。	デザインのできる役割を理解し、デザインがどのように機能するかを試みることができるようになる。 授業後に配布される資料で復習を行うことで、後日の授業を円滑に受講することができ、到達目標を上回ることに繋がる。	デザインを用いて様々なメディアをデザインし、機能させることができるようになる。	
KYO82-2-072	基礎	芸術	芸術史講義(日本)1	選択	2・3	講義	2	前期集中 後期集中	オンデマンド	60				40		日本の造形芸術の成立から平安時代、鎌倉時代までの展開	日本の美術史を体系的に学びます。縄文・弥生時代から古墳時代までの芸術と飛鳥時代から鎌倉時代までの仏教美術を主に紹介します。この講義の目的は、まずは日本美術史を専門的に学習するために必要とされる基礎的な知識を身につけることです。その上で、縄文から鎌倉時代までを通史として概観することによって、これらの時代の芸術作品に通底する特徴を見出すことを目指します。		日本の造形芸術の成立から平安時代、鎌倉時代までの造形芸術活動の歴史的な流れを正しく把握するとともに、個別の作例について、その造形的特徴や制作の背景について理解できる。
KYO82-2-073	基礎	芸術	芸術史講義(日本)2	選択	2・3	講義	2	前期集中 後期集中	オンデマンド	60				40		日本の造形芸術の近世および近代の絵画・工芸	日本の美術史を体系的に学びます。主に室町時代から江戸時代における芸術をとりあげ、彫刻、絵画、工芸の各領域にわたってその歴史の流れを把握し、また個々の作品についても制作された活動や歴史的背景について考察します。		日本の造形芸術の近世および近代までの造形芸術活動の歴史的な流れを正しく把握するとともに、個別の作例について、その造形的特徴や制作の背景について理解できる。
KYO82-2-074	基礎	芸術	芸術史講義(日本)3	選択	2・3	講義	2	前期集中 後期集中	オンデマンド	60				40		日本の文学、芸能、音楽の古代から近世に至るまでの流れ	まず古代の『万葉集』から近世の俳句にいたる歌や文学作品、あるいは能や狂言を採りあげて、日本芸能の流れを通史として概観します。そして各時代、各地域を象徴する作品の様式や技法といった基礎的な知識を修得します。つぎに個々の文学作品や芸能が生み出された背景を、当時の政治、経済、宗教といった様々な社会状況から多層的に考察します。講義では約1000年の間に生み出されてきた多様な芸術作品を動画とテキストによって解説します。		上代から近世に至る歌謡・和歌・音楽・俳諧、物語・日記・随筆・浮世草子、能・狂言について各時代、各分野の流れとそれぞれの特徴を把握できる。日本における芸術の流れを総合的に修得できる。
KYO82-2-075	基礎	芸術	芸術史講義(日本)4	選択	2・3	講義	2	前期集中 後期集中	オンデマンド	60				40		江戸時代から明治期に至るまでの文学、歌舞伎、話芸、民俗芸能	まず江戸期から明治期までの文芸活動や、歌舞伎・浄瑠璃などの芸能の流れを概観します。特に近世に花開く町人文化としての戯作・歌舞伎や落語などの話芸、また各地域に伝承される民俗芸能などを中心として、個々の文学作品や芸能が生み出された背景を、当時の思想や宗教といった様々な社会状況から多層的に考察します。約300年の間に生み出されてきた多様な芸術活動及び作品を動画とテキストによって解説します。		散文・俳諧といった文学や思想、浄瑠璃・歌舞伎、邦楽・舞踊から祭礼・民俗芸能、落語・講談までの芸能、さらに明治期の文学(散文・詩歌)・思想についてそれぞれの特徴を把握し、時代や地域を超えた観点や、近世から近代への移行という視座も併せて修得できる。
KYO82-2-076	基礎	芸術	芸術史講義(アジア)1	選択	2・3	講義	2	前期集中 後期集中	オンデマンド	60				40		中国の古代から明清時代に至るまでの芸術史	中国の造形芸術の流れを体系的に学びます。取りあげる時代の範囲は先史時代の紀元前6000年頃から清王朝の19世紀までです。各章では当時の歴史的背景を述べるとともに、造形芸術の流れを具体的に詳しく見ていきます。		古代から続く様々なジャンルの中国美術はいかにして成立し、そして展開していったか、その長い歴史を学ぶことにより、アジアにおける中国の造形芸術の営みを体系的に把握できる。アジアの造形芸術の流れのなかで中国美術の理解を深めることができる。
KYO82-2-077	基礎	芸術	芸術史講義(アジア)2	選択	2・3	講義	2	前期集中 後期集中	オンデマンド	60				40		朝鮮半島、西アジア、中央アジア、インドなどアジア各地の芸術史	朝鮮半島、西アジア、中央アジア、インド、東南アジアなど、アジア各地の芸術史を幅広く体系的に学びます。各章では各地域・時代の歴史的背景を述べるとともに、著名な彫刻、絵画、工芸、建築、遺跡などを取りあげて、それぞれの地域の造形芸術の流れを具体的に詳しく見ていきます。		各時代の国際関係や交易にともなう文化の伝播や交流の歴史があり、それぞれが互いに影響し合って各地域の芸術が成立した経緯を正確に理解できる。
KYO82-2-078	基礎	芸術	芸術史講義(アジア)3	選択	2・3	講義	2	前期集中 後期集中	オンデマンド	60				40		中国の文学、音楽、舞台芸術についての古代から19世紀までの流れ	主に中国の古典文学、古典音楽や伝統演劇などさまざまな上演芸術をとりあげ、紀元前の周、秦といった時代から、漢、魏晉南北朝、隋、唐、宋を経て、元、明、清へと続く、中国のこうした芸術の展開を、映像資料をふんだんに用いながらたどって行きます。また、漢民族以外の少数民族の上演芸術についても、三つの章に分けて概観します。		時代をおいながら、文学史に関しては、他の上演芸術とも関係の深い詩、戯曲ならびに通俗小説に焦点をあてつつ、その流れを把握できる。文学とも密接な関係にあった音楽、さらに演劇やさまざまな芸能などがどのように生み出され、発展したのかというその過程を捉えることができる。
KYO82-2-079	基礎	芸術	芸術史講義(アジア)4	選択	2・3	講義	2	前期集中 後期集中	オンデマンド	60				40		朝鮮半島、インド、東南アジアの文学、上演芸術	アジア諸地域の文学、演劇、音楽などさまざまな上演芸術の歴史を体系的に学習します。韓国、インド、さらにベトナム、ミャンマー、カンボジア、インドネシア・マレーシア、タイ・ラオスといった東南アジア諸国の上演芸術をとりあげて、各時代・各地域におけるそれらの展開を映像資料をふんだんに用いながら、歴史的に跡づけます。		東南アジアのさまざまな芸術を国別に理解できる。
KYO82-2-080	基礎	芸術	芸術史講義(ヨーロッパ)1	選択	2・3	講義	2	前期集中 後期集中	オンデマンド	60				40		ヨーロッパの造形芸術の成立から盛期ルネサンスまでの展開	この科目では、ヨーロッパ文明の源である、古代エーゲ海文明から、古代ギリシアおよび古代ローマの芸術、そして初期キリスト教時代を経てビザンティン、ロマネスク、ゴシック、ルネサンスへと続く西洋の芸術の道程を、テキスト・講義映像・映像資料を用いて概観します。さらに各地域、各時代の芸術作品にみられる造形的特徴の比較を行い、その変遷を通史的ななか跡づけます。		ヨーロッパの造形芸術の土台が、古代エーゲ海文明、さらには古代ギリシアやローマ文明を基に形成されていく過程を知ることができる。その土台から、キリスト教芸術が展開していく様子を、当時の社会的・文化的・地理的条件を考慮しながら理解できる。こうした芸術史の流れと共に、各地域・各時代に生じた芸術動向を典型的に示した作品にみられる基本的な情報を学び、作品を造形的な特徴から考察する能力を身につける。
KYO82-2-081	基礎	芸術	芸術史講義(ヨーロッパ)2	選択	2・3	講義	2	前期集中 後期集中	オンデマンド	60				40		盛期イタリア・ルネサンスから20世紀はじめまでの造形芸術の歴史	盛期イタリア・ルネサンスのミケランジェロの芸術から、ヴェネツィア派の芸術、15・16世紀のネーデルラントとドイツの芸術、さらにマニエリスム、バロック、ロココ、フランス新古典主義、ロマン主義とレアリスム、印象派、ポスト印象派へと続く西洋の芸術の道程を、テキスト・講義映像・映像資料を用いて概観します。さらに各地域、各時代の芸術作品にみられる造形的特徴を理解し、その変遷を通史的ななか跡づけます。		15世紀以降イタリアを中心にヨーロッパのさまざまな地域で誕生したルネサンス芸術が、その後、各地で多様な展開を遂げていく様子を、当時の社会的・文化的・地理的条件を考慮しながら理解できる。こうした芸術史の流れと共に、各地域・各時代に生じた芸術動向を典型的に示した作品にみられる基本的な情報を学び、作品を造形的な特徴から考察する能力を身につける。

ナンバリング	段階	科目群	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学習目標	到達目標	
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6					
KYO82-2-082	基礎	芸術	芸術史講義(ヨーロッパ)3	選択	2・3	講義	2	前期集中 後期集中	オンデマンド	60				40			ヨーロッパの文学、音楽、舞台の古代ギリシアから18世紀までの歴史	ヨーロッパにおいて、古代ギリシアから18世紀後半の啓蒙主義の時代までに生み出された、上演芸術に関するさまざまな文学作品あるいは文芸理論についてとりあげます。その歴史を過渡として概観すると同時に、個々の作品や作家に関する基礎的な知識を身につけることで、上演芸術について考察する能力を培います。その上で、上演芸術が演劇、美術、音楽、文学、舞踏からなる総合芸術であることを学びます。		この講義の前半では、ギリシア文学、ギリシア哲学、ローマ文学、キリスト教文学、ルネサンス文学、人文主義といったヨーロッパ文化の「土台」といふべきものを学ぶことができる。どれも近現代の西洋文化が成立するうえで欠かせない要素です。テオカルトの哲学は何を変えたのでしょうか。「小説」というジャンルはどのように生まれていくのでしょうか。こうした変遷をしっかりと時代の流れのなかで捉えることができる。
KYO82-2-083	基礎	芸術	芸術史講義(ヨーロッパ)4	選択	2・3	講義	2	前期集中 後期集中	オンデマンド	60				40			18世紀・19世紀のヨーロッパ諸国の上演芸術作品の諸潮流	西洋の上演芸術を、18世紀後半から19世紀末までの約150年間にわたって概観し、ドイツ、イタリア、イギリス、フランス、ロシア、アメリカなどで生じた様々な作品についての基礎的な知識を修得します。特にハイデルンやモーツァルトに代表される古典派音楽から、ゲーテなどのロマン主義の文学、さらにはイタリア・オペラ、あるいはワーグナーやチャーホフそしてワイルドの作品などを採りあげます。個々の作品の背景にある芸術動向について学習した上で、それらの上演芸術を分析し、近代という時代の特殊性に関して考察します。		西洋文化の重要な要素がどのように形づくられ、どのように変化していくか、全体の流れのなかで総合的に理解できる。さまざまな作家、さまざまな芸術家に出会い、個々の作品に親しむ機会を設けて、個々の作品を様式的に捉えたいうえで、その作品の特性を理解できる。
KYO82-2-084	基礎	芸術	芸術史講義(近現代)1	選択	2・3	講義	2	前期集中 後期集中	オンデマンド	60				40			20世紀初頭から21世紀まで、特に欧米での造形芸術の流れ	20世紀初頭から今日まで、おもに西洋で生じた様々な芸術動向に関する基礎的な知識を学ぶと共に、目まぐるしく変化する近現代の芸術作品、その様式の多様性についても紹介します。絵画・彫刻・建築といった既成のジャンルを横断するような作品の出現、あるいは新たなジャンルの誕生など、様式やジャンルの多様性が生み出された背景についても解説します。		20世紀初頭から現在までの芸術動向の歴史的展開を理解できる。代表的な作家や作品を通して、各時代の芸術運動の理論的基盤と表現手法の特徴を理解できる。受講生一人一人が近現代の芸術表現をめぐる諸問題について自分の考えを深めることができる。
KYO82-2-085	基礎	芸術	芸術史講義(近現代)2	選択	2・3	講義	2	前期集中 後期集中	オンデマンド	60				40			アジアやアフリカなどの動向や建築、写真、ファッションなどの歴史	非西洋世界、おもに日本の明治後期以後の芸術を中心とし、現代の中国および韓国、あるいはアフリカで誕生した近現代芸術にくわえて、写真、工芸、ファッション、女性作家といった今日的な項目を設定して、多様な芸術作品と作家についての基礎的な情報を学びます。非西洋世界の芸術が、社会の近代化によってどのような影響を受け、いかに変化し展開していったのかを、欧米の近代美術との関係を踏まえつつ検討することによって、モダニズム芸術の本質あるいはそれが抱える問題について考察します。		日本における近現代美術の動向とともに中国と韓国の美術の展開、さらにはアフリカ・オセアニアの美術の動きまで、芸術表現のグローバルな広がりやデザインなど私たちに身近な文化の領域に目を向けることによって、20世紀における芸術文化の変遷や拡張をより多面的に理解できる。
KYO82-2-086	基礎	芸術	芸術史講義(近現代)3	選択	2・3	講義	2	前期集中 後期集中	オンデマンド	60				40			十九世紀末からの文学、舞台芸術の流れと社会の動き	20世紀を中心に、19世紀末から現代までの文学と上演芸術について学ぶ科目です。文学では、ジョイスやフオークナーなど英語圏文学、プルーストなどフランス語圏文学、カフカなどドイツ語圏文学、ラテンアメリカ文学やポストコロナル文学、そして、大江健三郎や村上春樹など現代日本文学を扱います。後半では、舞台芸術について、劇作家と作品だけでなく、演出や演者などさまざまな側面から考えていきます。		十九世紀末からの文学、舞台芸術の流れと社会の動きを知り、現在進行形のものであるさまざまな芸術動向の全体像を捉えることができる。
KYO82-2-087	基礎	芸術	芸術史講義(近現代)4	選択	2・3	講義	2	前期集中 後期集中	オンデマンド	60				40			近現代の欧米とアジアの音楽、映画そしてサブカルチャーの変遷	19世紀末以降現代までの音楽、映画、さらにマンガやアニメーションなどサブカルチャーについて学習します。ジョン・ケージャの試みや電子音楽、ジャズ、ロック、ワールドミュージックなどを含む現代音楽、ハリウッドやヌーヴェル・ヴァーグといった映画、手塚治虫、ディズニーから宮崎駿のアニメーションまでのサブカルチャーについて、多面的に紹介していきます。		近現代の欧米とアジアの音楽、映画そしてサブカルチャーの変遷を知り、現在進行形のものであるさまざまな芸術動向の全体像を捉えることができる。
KYO83-1-092	入門	コミュニケーション	リーディングスキル1	選択	1・2	講義	1	1Q 3Q	双方向 遠隔	40	20			40			日本語の読解と表現の技術について学ぶ	日常にあふれる情報を学生自身で収集し、その内容について検討します。そして、それらの情報を「事実」と「意見」とに区別しながら理解していきます。こうした作業を重ねていくなかで、学生自身が情報発信をする際に、自分が事実を伝えているのか、あるいは意見を伝えているのか、自覚できる能力を身につけていきます。	身の回りにはあふれている情報の質を見極め、積極的に自分自身の意見や考えを持ち、論理的に表現することができる。	芸術の力を社会に活かす能力を発揮するために、与えられた情報を正確に理解できるようになる。さらに、その情報に含まれるどの部分が事実でどの部分が意見なのかを説明ができるようになる。結果として、常に事実と意見を区別して取り扱うことのできる思考が身につく。
KYO83-1-093	基礎	コミュニケーション	リーディングスキル2	選択	1・2	講義	1	2Q 4Q	双方向 遠隔	40	20			40			日本語の読解と表現の技術について考えなおす力を身につける	情報を文章で伝達するとき、その情報を意図した通り受け手が読めるようにするにはどのような注意が必要なのか体感していきます。新聞・雑誌・書籍・HP・SNS等の日本語表現を手がかりとして、読み手にとって親切な表現とはいかなるものか理解を深めていきます。情報の送り手と受け手が「前提」や「仮定」を適切に共有していないと、意味や意図が一意に伝達されない場合があることも理解するようにします。	情報を正確に、論理的に文章化することができ、他者の意見を尊重しながら、積極的にリーダースhipを持ち議論を交わすことができる。	自立した社会人として芸術の力を社会に活かすに当たって、分析的かつ論理的にテーマや仮説を文章で明示できるようになる。またその際に、社会に存在する多様性に気づき、それらに対する寛容と受容の態度をもって、異なる価値観を持つ他者と共生することのできる表現を選び取れるようになる。
KYO83-1-094	入門	コミュニケーション	異文化コミュニケーション	選択	1・2	講義	1	1Q 2Q 3Q 4Q			50	30		20			異なる文化の違いを認め、理解する力を身につける	異文化コミュニケーションとは何でしょうか？世界では多くの言語が話され、その数だけの文化が存在します。本授業では世界を見渡した時に見えてくるこれら多くの「違い」についての理解を深め、これからのコミュニケーションのあり方について探求していきます。最終的には受講生各自が、グローバルな視野を構築することを目指しています。	異文化に対する深い興味と理解を示し、積極的なコミュニケーション力をもって議論を率先することができる。	異文化に対する興味・理解を促進させ、コミュニケーション力の向上に必要な視野を持ち、自己成長へとつなげることができるようになる。
KYO83-1-095	入門	コミュニケーション	英語コミュニケーション1	選択	1・2	講義	1	1Q 3Q	双方向 遠隔	30	70						日常英会話:英会話入門	CEFR A1レベル 日常生活に必要な英単語や表現を学習します。相手を理解し自分を表現できる基本的な英語コミュニケーション力を身につけることができます。ペアワークを中心に、楽しみながら基礎的な英語によるコミュニケーションに慣れ、自己を表現できます。CEFR A1レベルでスタートし、A2レベルをゴールに設定しています。	自律的な日常英会話力を超えて、グループやペアワークを通して説得力のある意見交換ができ、仲間の考えや意見を英語で積極的に引き出すことができるリーダースhipを持つことができる。	日常生活に必要な基本的な英語表現をクラスメートとのペアワーク、グループワークでの練習を通して自分のものにできる。大学生に必要となる英語による基本的な言語運用能力と人と英語でつながるコミュニケーション力をもつことができる。
KYO83-1-096	入門	コミュニケーション	英語コミュニケーション2	選択	1・2	講義	1	2Q 4Q	双方向 遠隔	30	70						日常英会話:初級英会話	CEFR A1+レベル 日常生活に必要な英単語や表現を学習します。英語コミュニケーション1)を履修した後、継続して初級英会話を学習を希望する受講者対象のクラスです。相手を理解し自分を表現できる基本的な英語コミュニケーション力を身につけることができます。ペアワークを中心に、楽しみながら基礎的な英語によるコミュニケーションに慣れ、自己を表現できます。CEFR A1レベルでスタートし、A2レベルをゴールに設定しています。	「英語コミュニケーション」からのステップアップとして、自律的な日常英会話力を超えて、グループやペアワークを通して説得力のある意見交換ができ、仲間の考えや意見を英語で積極的に引き出すことができるリーダースhipを持つことができる。	「英語コミュニケーション」からのステップアップとして、日常生活に必要な基本的な英語表現をクラスメートとのペアワーク、グループワークでの練習を通して自分のものにできる。大学生に必要となる英語による基本的な言語運用能力と人と英語でつながるコミュニケーション力をもつことができる。
KYO83-1-097	基礎	コミュニケーション	英語コミュニケーション3	選択	1・2	講義	1	1Q 3Q	双方向 遠隔	20	70			10			英語の4つのスキルを美しいイメージや映像で学ぶ:中級英会話	CEFR A2レベル 鮮やかなイメージや画像を使って、アートやデザインをはじめ身近で関心のある事柄について話したり、聞いたりできます。世界に視界を広げ、知的な興味を喚起する様々な情報に触れ、「話す、読む、聞く、書く」4つの技術が学べます。CEFR A2レベルでスタートし、B1レベルを目指します。	アートやデザインをはじめ世界で起こっているトピカルなテーマについて、情報検索や分析を行い、自分自身の説得力のある意見や主張を展開でき、英語で発信することができる。	様々な場面でコミュニケーションに役立つ英語の語彙や読解力を伸ばしながら、他者と意見を交換し自分自身の考えをしっかりと持つことができる。自然な発話のリズムと抑揚に慣れ、継続して会話が続けられる英語力を獲得できる。

ナンバリング	段階	科目群	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学習目標	到達目標
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6				
KYO83-1-098	応用	コミュニケーション	英語コミュニケーション4	選択	1・2	講義	1	2Q 4Q	双方向 遠隔		70				30	英語で触れ合うクリエイティブ世界：上級英会話	CEFR B2-C1レベル 急速にグローバル化する社会で、自分自身や制作活動について語る機会が増える中、各クリエイターは英語に馴染み、使いこなす必要があります。自己を表現し、作品や創作活動を英語で表現することを目的とします。情報を分かりやすく理解するため、デザインと編集に触れ、構成や発表、アーカイブすることを通して学習を深めていきます。(CEFR B2-C1レベル)	アートやデザインなど自身の専門領域と深くつながる英語表現への理解を深め、自身の創作や研究を説得力のある英語表現を用いて発信することができる。	自分の制作活動や情報発信に向けて、自ら積極的に取り組み、積極的に英語を活用できるようになる。
KYO83-1-099	応用	コミュニケーション	Academic English 1	選択	1・2	講義	1	1Q 3Q	双方向 遠隔		60		20	20	海外留学・進学、海外就職のための実践英語：上級前編	CEFR B2レベル 世界のトップ・プレゼンターによる説得力のあるプレゼンテーションと鮮明な画像と動画により、効果的な英語表現法を学びます。知的で、興味深い内容を楽しみながら、英語の4つのスキルをバランスよく身につけることができます。(CEFR B2レベルでスタートし、C1レベルを目指します。)	TOEFLやIELTSなどの海外の高等教育機関で求められる幅広い知識や読解力、論理的な思考力を身に付けることができます。それらに基づき、自身の意見や考えを論理的に記述、発信する能力を獲得する。	世界の様々な人々の意見や考えを理解し、自分自身の考えや意見を獲得する。知識や語彙を増やしながら、4つのスキルと英語による表現力を高めることができる。	
KYO83-1-100	応用	コミュニケーション	Academic English 2	選択	1・2	講義	1	2Q 4Q	双方向 遠隔		60		20	20	海外留学・進学、海外就職のための実践英語：上級後編	世界のトップ・プレゼンターによる説得力のあるプレゼンテーションと鮮明な画像と動画により、効果的な英語表現法を学びます。知的で、興味深い内容を楽しみながら、英語の4つのスキルをバランスよく身につけることができます。(CEFR B2でスタートし、C1レベルを目指します。) Academic English1とセットで履修することが望ましいクラスです。	「Academic English 1」に続き、TOEFLやIELTSなどの海外の高等教育機関で求められる幅広い知識や読解力、論理的な思考力を身に付けることができます。それらに基づき、自身の意見や考えを論理的に記述、発信する能力を獲得する。	「Academic English 1」に続き、世界の様々な人々の意見や考えを理解し、自分自身の考えや意見を獲得する。知識や語彙を増やしながら、4つのスキルと英語による表現力を高めることができる。	
KYO83-1-101	入門	コミュニケーション	留学生・日本の文化と言語1	選択	1	講義	1	1Q 3Q			30	70				日本の文化と社会を知り大学生活に必要な日本語を習得する：初学者	1年生以上の留学生を対象に、大学生活に役立つ日本語運用能力を習得するための授業を行います。日本語のライティングを行うために必要な基本的表現を中心に学び、さらに大学の講義で求められるコメントカードやレポートを執筆するための基礎的な日本語技能を様々な実践を通して習得することを目的とします。また、毎回、漢字と語彙の小テストを行います。	日本の文化や社会を理解し、的確な日本語表現ができる。自分の意見や考えを正確な日本語で書き、表現することができる。	大学の講義などにおける書くことを中心とした活動ができるようになる。
KYO83-1-102	入門	コミュニケーション	留学生・日本の文化と言語2	選択	1	講義	1	2Q 4Q			30	70				日本の文化と社会を知り大学生活に必要な日本語を習得する：初級	1年生以上の留学生を対象に、大学生活に役立つ日本語運用能力を習得するための授業を行います。まず日本語のリーディングに必要な基本的表現を中心に学び、次に大学の講義を理解するために求められる基礎的な日本語技能を様々な実践を通して習得することを目的とします。また、毎回、漢字と語彙の小テストを行っていきます。	日本の文化や社会への理解を深め、的確な日本語表現ができる。自分の意見や考えを正確な日本語で書き、表現することができる。	大学の講義などにおける書くことを中心とした活動ができるようになる。
KYO83-2-103	基礎	コミュニケーション	留学生・日本の文化と言語3	選択	2	講義	1	1Q 3Q			20	70		10		日本の文化と社会を知り大学生活に必要な日本語を習得する：中級	2年生以上の留学生を対象に、大学生活に役立つ日本語運用能力を習得するための授業を行います。大学生活や日常の様々な場面で用いられる日本語の口頭表現を中心に学び、さらに大学の講義の中でディスカッションを行ったり話し合ったりするために求められる応用的な日本語技能を様々な実践を通して習得することを目的とします。また、毎回漢字と語彙の小テストを行います。	日本の文化や社会への理解を深め、的確な日本語による表現ができる。自分の意見や考えを正確な日本語で話し、表現することができる。	大学の講義などにおける話すことを中心とした活動ができるようになる。
KYO83-2-104	基礎	コミュニケーション	留学生・日本の文化と言語4	選択	2	講義	1	2Q 4Q			20	70		10		日本の文化と社会を知り大学生活に必要な日本語を習得する：上級	様々な事象や心情、思考などを言語化し、他者に的確に伝える力を培うことを目的としています。毎回、授業内で出される課題について、ペアやグループで説明しあったり、意見を交わしたりします。その際、適切な言語表現や機能を確認し、より高度で自然な日本語表現が使えるようになることを目指します。この授業では、スピーキングを主としますが、話すために必要な知識や語彙力を習得するため、新聞などで時事について学びます。また、日本での就職の採用テストとして使用されること多い「SP(言語問題)」の演習も行い、小テストを実施します。	テーマや目的に応じ、的確な日本語表現ができる。自分の意見や考えを正確な日本語で表現し、他者の意見を引き出すリーダーシップを発揮することができる。	様々な事象や心情、思考が正確に言語化でき、他者に的確に伝えられるようになること。また、正確に理解できるようになること。日本語で話すことに臆することなく、自信を持って話せるようになること。
KYO83-3-113	応用	コミュニケーション	留学生・Advanced Japanese	選択	3・4	講義	1	1Q 2Q				70		30		進学、就職のための実践日本語	自己PR文の書き方や面接での話し方など、日本での就職活動に必要な知識やスキルを実践を通して学んでいきます。自己PR文やスピーチは学生同士でチェックし、評価します。何度も考察し他者に説明することで、自分の思考を明確にし、より高度で自然な日本語表現が使えるようになることを目指しています。より高度な話題を話すために必要な知識や語彙力を習得するため、新聞などで時事についても学びます。また、日本での就職の採用テストとして使用されること多い「SP(言語問題)」の演習も行い、小テストを実施します。	論理的で説得力のある日本語表現を獲得でき、就職活動で求められる高度な日本語の語彙力、文章力、自己発信能力を身に付ける。	就職活動に必要な知識やスキルがわかるようになること。自分の思考を明確にし、文章化できるようになること。また、他者に的確に伝えられ、他者の話が正確に理解できるようになること。日本語で話すことに臆することなく、自信を持って話せるようになること。
KYO83-2-105	基礎	コミュニケーション	中国語圏の文化と言語	選択	2・3	講義	1	1Q 3Q			30	50	20			中国語と中国語圏の社会と文化について学ぶ	中国語によって培われた文化・文明は五千年以上の歴史を持ち、日本を含む東アジアの文化・社会もその揺籃の中で形成されていきました。この授業では中国語の特性を知るとともに現在の中国に焦点を当て、そのあり様を日本と比較する視点から中国語圏(中国大陸、台湾、香港、等々)の社会と文化に対する理解を深めていきます。	中国語と中国語圏の社会や文化への深い関心を示し、基礎的な中国語の表現を理解し、自らの意見や考えを発信できる。	“中国語の発音と文構造の基本が分かるようになる。簡単な中国語表現が話せるようになる。中国語圏の文化と社会について理解を深めることができるようになる。”
KYO83-2-106	基礎	コミュニケーション	朝鮮半島の文化と言語	選択	2・3	講義	1	1Q 3Q			30	50	20			コリア語の入門と朝鮮半島の文化について学ぶ	グローバル化時代を生きる大学生の「教養」として、韓国語と韓国文化について学びます。前半は基礎的な韓国語の文字とその発音を修得します。○や棒の記号に見える韓国語の文字「ハングル」の子音、母音を覚えて、表記と異なる発音の変化などを理解する基礎韓国語の学修に重点を置きます。後半はその組み合わせである文字を読めるようになり、挨拶や簡単な文章を言えるようになることを目指します。また、後半の授業には言葉と関連する韓国の文化を学びます。韓国の言葉や文化の基礎学習による土台作りから、学修者のより強い興味を引いて、隣国への理解を深めると共に、自分の世界が広がることを期待します。	コリア語と朝鮮半島の社会や文化への深い関心を示し、基礎的なコリア語の表現を理解し、自らの意見や考えを発信できる。	韓国語でコミュニケーションできる基礎を学び、韓国の社会と文化について理解を深めることができる。
KYO83-2-107	基礎	コミュニケーション	イタリア語圏の文化と言語	選択	2・3	講義	1	3Q			30	50	20			イタリア語とイタリア語圏の文化について学ぶ	ヨーロッパ全体で共有されるローマ帝国の遺産を数多く継承するのはイタリアです。イタリア語の基礎を学びながら、イタリア文化を理解し、芸大生としての興味関心を広げることを目的としています。具体的には旅行で使えるイタリア語表現を学びながら、イタリア文化への関心を広げます。自宅での予習・復習(読み、書き、話す、ダウンロード音声を聞く、など)をしっかり行い着実に力をつけていきましょう。授業ではペアワークによって表現を身につけていきます。	イタリアの社会や文化への深い関心を示し、基礎的なイタリア語の表現を理解し、自らの意見や考えを発信できる。	旅行で使える挨拶、簡単な自己紹介、買い物での表現ができるようになる。イタリア文化の関心事について自身の言葉で語れるようになる。

ナンバリング	段階	科目群	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学修目標	到達目標	
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6					
KYO83-2-108	基礎	コミュニケーション	ドイツ語圏の文化と言語	選択	2・3	講義	1	3Q							ドイツ語とドイツ語圏の文化について学ぶ	ソーセージやビールなどの食文化、数多くの文学作品や思想書、あるいは日本と並ぶ高性能の自動車産業を通して、学生の皆さんもドイツ文化に触れる機会が多いでしょう。ドイツ語はゲルマン語系の主要な言語のひとつであり、ドイツ語が育んできた文化・芸術は多彩かつ豊富です。この授業ではドイツ語の文構造の基本までを学ぶとともに、ふだん知る機会のないドイツ語文化への入門的な案内を果たします。	ドイツ語とドイツ語圏の文化への深い関心を示し、基礎的なドイツ語の表現を理解し、自らの意見や考えを発信できる。	ドイツ語の基本的文構造と日常的な会話を理解することができ、ドイツ語文化圏に具体的に親しみを持つことができる。		
KYO83-2-109	基礎	コミュニケーション	フランス語圏の文化と言語	選択	2・3	講義	1	1Q 3Q							フランス語とフランス語文化圏について学ぶ	ヨーロッパ文明の中においてフランス語とフランス文化は常に枢要な地位を占めてきました。フランス語は「明晰ならざるものはフランス語にあらず」という精神の中で洗練を重ねてきた言語であり、それを学ぶことは大きな知的快感を学習者に与えてくれます。またフランス文化と芸術は近代以降の日本と世界に大きな影響を与えてきました。すなわちフランス語とフランス語圏の文化を学ぶことなしに近現代の文化・芸術を知ることは不可能なのです。フランス語の基本的な構造を学ぶとともに実践的な語学能力を培い、同時にフランス語圏文化について正確な知識を学んでいきます。	フランス語とフランス語圏の文化への深い関心を示し、基礎的なフランス語の表現を理解し、自らの意見や考えを発信できる。	フランス語の基礎的な能力を「読む」「聴く」「話す」「書く」の全領域にわたって身につけ、同時にフランス語によって実現された文化について幅広く知識をもつことができる。		
KYO83-2-110	基礎	コミュニケーション	アラビア語圏の文化と言語	選択	2・3	講義	1	1Q							中東の言語(アラビア語)と文化についての基礎を理解する	アラビア語は中東・北アフリカの主要言語のひとつであり、世界中のイスラム教徒(ムスリム)にとって最も重要な言語です。この授業ではアラビア語(正則アラビア語のフスハー)の初級文法の習得と、同言語のコミュニケーション能力の基礎固めをしながら、イスラムの文化的側面についての理解を深めることを目指しています。	アラビア語とアラビア語圏の文化への深い関心を示し、基礎的なアラビア語の表現を理解し、自らの意見や考えを発信できる。	アラビア文字と発音について理解し、母音符号が振ってある文章を読むことができる。アラビア語文法に則った正しい文章を作成することができる。イスラムの諸文化についての理解を深め、自分なりの考え方を表現することができる。		
KYO83-2-111	基礎	コミュニケーション	スペイン語圏の文化と言語	選択	2・3	講義	1	4Q							スペイン語とスペイン語文化圏について学ぶ	アントニオ・ガウディやパブロ・ピカソ、サルバドル・ダリなど著名な芸術家を数多く生み出したスペインは芸術大学で学ぶ皆さんにとって興味深い国だと思います。そこで使われるスペイン語は本国はもちろんのこと中央アメリカから南アメリカ、アメリカ合衆国でも広く話されている言語です。スペイン語の基礎を学びながら、スペイン語圏への関心を広げ、基礎的なコミュニケーション力を修得していきます。	スペイン語とスペイン語圏の文化への深い関心を示し、基礎的なスペイン語の表現を理解し、自らの意見や考えを発信できる。	スペイン語の基礎的な能力「聞く」「話す」「読む」「書く」を身に付け、スペイン語文化圏に親しみながら、幅広く知識を持つことができる。		
KYO83-2-112	基礎	コミュニケーション	英語圏の文化と言語	選択	2・3	講義	1	3Q							英語と英語文化圏について学ぶ	英語を第一言語とするアメリカ合衆国、イギリスをはじめ、公用語や第二言語として使用しているインドなど世界60か国以上の国々を合わせて「英語圏」が形成されています。さらにはビジネスやネット上での最多使用言語が英語であることから、英語コミュニケーションで必要とされる英語のロジックを学び、英語のロジックの組み立て方を学ぶことは大切です。ただ単に英語を話したり書いたりするだけではなく、より効果的に相手に内容を伝え、より説得力のあるコミュニケーションができるようになることを目指しています。	英語と英語圏の文化への深い関心を示し、論理的な思考を行うための英語表現を理解し、自らの意見や考えを効果的に発信できる。	より効果的な英語によるコミュニケーションができるようになるために、英語ロジックを理解し、思考方法やそれに基づく表現方法の違いを意識しながら、効果的で説得力のある英語表現やコミュニケーションができる。		
KYO84-1-114	入門	プロジェクト	ことばのワークショップ1	選択	1	演習	1	1Q						40	30	30	大学生に必要な「ことば」と「コミュニケーション」	京都芸術大学の学生として表現活動を行うために身につけておいた方がよい、ことばで世界を分節して思考する能力を育てていくワークショップを行います。ことばに関わる様々な形態のワークショップを体験し、それをきっかけとして学生自身がこれまでの自己の言語活動を振り返ることができるような時間を設けます。そのような内省を通して、自らの言語的思考こそが自分に見える世界を構成しており、したがって自分とは異なる言語的思考をする他者には自分が見えている世界とは違う世界が見えていることに気づけます。自身と他者との意見や価値観の相違を各学生が学内外で互いに尊重できる見識を身につけることがこのワークショップの目的です。	ことばに関するワークショップを通して、人間、社会、自然等に関する知識・情報の体系的収集・理解がコミュニケーションの前提として重要であることに気づく。正しい情報をもとに物事を論理的に考える必要性が自覚され、考える能力を身につけようとする。ことばによる他者とのコミュニケーションを行う際、丁寧な説明や根拠を示しつつ自己の考えを述べることの有効性に気づき聞き手や読み手に届く表現ができるようになる。	ことばに関するワークショップを通して、人間、社会、自然等に関する知識・情報の体系的収集・理解がコミュニケーションにおいて重要であることに気づく。正しい情報をもとに物事を論理的に考える必要性を自覚し、考える能力を身につけようとする。ことばによる他者とのコミュニケーションを行う際、丁寧な説明や根拠を示しつつ自己の考えを述べることの有効性に気づき、聞き手や読み手に届く表現を模索するようになる。
KYO84-1-115	入門	プロジェクト	ことばのワークショップ2	選択	1	演習	1	2Q						60	20	20	受け手に届く「ことば」と表現を実践を通して学んで行く	京都芸術大学の学生生活に関することや自分自身の生きる現実に関わる事柄を未知なる他者に届けるプレゼンテーションをグループワークによって製作します。その際、インターネットに散在する玉石混交の情報を鵜呑みにせず、その確かさや信頼性を検証しましょう。さらに、そうした既存の情報に加え、自らの身体を使って集めた経験や情報をグループ内で共有し、議論し、検討を重ねていき、プレゼンテーションの内容に値するコンテンツを取捨選択していきます。その上で、それらを誤解なく他者に届けるにはどのような表現方法やことばが適しているのかアイデアを出し合い、協働しながら作品を創り上げます。最後にそれをクラスで鑑賞し合評します。	自分の身体と心を使って集めた知識や情報を十分に検証し咀嚼した後、未知なる他者に向かってそれを分かりやすく表現して届けることができる。プレゼンテーションやコミュニケーションを「表現すること・発信すること」と捉えるのではなく、誰かに受け容れられて初めて成立する行為であると十分に理解できる。その認識に基づき、ことばや映像などを駆使して受容者に寄り添った表現を工夫し効果的なプレゼンテーションができる。	自分の身体と心を使って集めた知識や情報を十分に検証し咀嚼した後、未知なる他者に向かってそれを分かりやすく表現して届けることの重要性に気づく。プレゼンテーションやコミュニケーションを「表現すること・発信すること」と捉えるのではなく、誰かに受け容れられて初めて成立する行為だと捉えられる。その認識に基づき、ことばや映像などを駆使して受容者に寄り添った表現を工夫することの大切さが理解できる。
KYO84-1-116	入門	プロジェクト	マンデイ・プロジェクト1	選択	1	演習	2	1Q						30	50	20	個々の学修姿勢のベースをつくる	学びを獲得するための姿勢と学修の基盤をつくり、社会の様々な領域や場面で求められる基礎力を養うことを目的とします。学科やコースが異なるクラス構成の中で正解のない問いに挑むことにより、包括的でとらわれない見方や自由な考え方の獲得を目標とします。	課題に対し、問いを立て、方法を自ら考え、答えを導き出す姿勢を獲得できるようになる。	課題に対しての思考や方法を自ら考え、答えを導き出す姿勢を獲得できるようになる。何事にも一歩を踏み出す主体的な学修態度を獲得できるようになる。体験からの気づきを言語化し、他者と共有することができるようになる。
KYO84-1-117	入門	プロジェクト	マンデイ・プロジェクト2	選択	1	演習	2	2Q						20	60	20	協働で正解のない問いにのぞむ	この授業では、学びを獲得するための姿勢と学修の基盤をつくり、社会の様々な領域や場面で求められる人間として他者と関わりながら生きていくための基礎力を養うことを目的とします。学科やコースが異なるクラス構成の中で正解のない問いに挑むことにより、包括的でとらわれない見方や自由な考え方の獲得を目標とします。	課題に対し、協働で解決に向けての方法を考え、答えを導き出す姿勢を獲得できるようになる。	課題に対しての思考や方法を自ら考え、答えを導き出す姿勢を獲得できるようになる。何事にも一歩を踏み出す主体的な学修態度を獲得できるようになる。体験からの気づきを言語化し、他者と共有することができるようになる。
KYO84-1-118	入門	プロジェクト	クリエイティブ・プロジェクト	選択	1	実習	4	夏期集中						20	30	50	個人力と協働力、相互理解を通じて集団でひとつの課題に取り組む	多人数で物事を決めるためには相互理解が重要である。そのために、考え方・価値観・時間を共有し様々な実験と失敗を繰り返しながら、自らが主体的に関わりを持ち協働で成果を上げることを目的とします。目標やプロセスを明確にしたグループでの、連帯感や達成感、その喜びを共有するためグループワークで培った個人の能力と協働力を基に、制作物のアウトプットを実現します。	主体的な学修態度の獲得により体験からの気づきを言語化し、他者と共有することで協働での作業と協議を円滑に実施できるようになる。	制作の事前学修や工程の中で出てくる問題を協議し、解決策を導き出すことができるようになる。お互いを認め目的のために協働し、人的ネットワークを築くことができるようになる。主体的にグループのなかで役割を見つけ出し、行動に起こすことができるようになる。

ナンバリング	段階	科目群	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学習目標	到達目標		
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6						
KYO84-1-119	入門	プロジェクト	社会実装プロジェクト1	選択	1・2	演習	2	1Q							芸術と社会の関係を学び社会人に必要とされる能力を身につける:入門	社会には地域の活性化や企業の商品開発、空間演出など多岐にわたる課題が存在しています。それらに対し、芸大生である皆さんがもつ芸術・デザインの力による解決が求められています。社会実装プロジェクトでは企業や自治体から持ちこまれたそれらの社会的課題(仕事)に学年・学科を超えたグループワークで取り組みます。こうしたリアルな体験の過程で「PDCAサイクル」を学び、「組織と個人の関係」といったコミュニケーションに関わる体験など、社会人として必要な能力=社会人基礎力を身につけます。本授業はその入門編になります。	主体的な学修態度の獲得により、定例ミーティング外での、担当役割における準備活動等に積極的に参加することができる。	社会人として必要となる能力を身につけ、芸術がどのような社会とかわり、社会的な役割を果たしているか、その関係を学び、自分の考えを表現できるようにする。 レベル1:初めてプロジェクト活動に参加をする人。プロジェクトメンバーとして、他のメンバーと同様な業務を受け持ち、対応できる。			
KYO84-1-120	入門	プロジェクト	社会実装プロジェクト2	選択	1・2	演習	2	2Q							芸術と社会の関係を学び社会人に必要とされる能力を身につける:初級	社会には地域の活性化や企業の商品開発、空間演出など多岐にわたる課題が存在しています。それらに対し、芸大生である皆さんがもつ芸術・デザインの力による解決が求められています。社会実装プロジェクトでは企業や自治体から持ちこまれたそれらの社会的課題(仕事)に学年・学科を超えたグループワークで取り組みます。こうしたリアルな体験の過程で「PDCAサイクル」を学び、「組織と個人の関係」といったコミュニケーションに関わる体験など、社会人として必要な能力=社会人基礎力を身につけます。本授業はその初級編になります。	主体的な学修態度の獲得により、定例ミーティング外での、担当役割における準備活動等に積極的に参加することができる。	社会人として必要となる能力を身につけ、芸術がどのような社会とかわり、社会的な役割を果たしているか、その関係を学び、自分の考えを表現できるようにする。 レベル2:過去にプロジェクト活動をメンバーとして経験した人。リフレクションを経て、プロジェクトで修得した力を活用し、業務を遂行できる。			
KYO84-1-121	基礎	プロジェクト	社会実装プロジェクト3	選択	1・2	演習	2	3Q							芸術と社会の関係を学び社会人に必要とされる能力を身につける:中級	社会には地域の活性化や企業の商品開発、空間演出など多岐にわたる課題が存在しています。それらに対し、芸大生である皆さんがもつ芸術・デザインの力による解決が求められています。社会実装プロジェクトでは企業や自治体から持ちこまれたそれらの社会的課題(仕事)に学年・学科を超えたグループワークで取り組みます。こうしたリアルな体験の過程で「PDCAサイクル」を学び、「組織と個人の関係」といったコミュニケーションに関わる体験など、社会人として必要な能力=社会人基礎力を身につけます。本授業はその中級編になります。	主体的な学修態度の獲得により、定例ミーティング外での、担当役割における準備活動等に積極的に参加することができる。また、担当業務に対する創意工夫、社会人として必要な行動ができる。	社会人として必要となる能力を身につけ、芸術がどのような社会とかわり、社会的な役割を果たしているか、その関係を学び、自分の考えを表現できるようにする。 レベル3:組織において分担されたチームのリーダーとして業務を遂行できる。			
KYO84-1-122	基礎	プロジェクト	社会実装プロジェクト4	選択	1・2	演習	2	4Q							芸術と社会の関係を学び社会人に必要とされる能力を身につける:上級	社会には地域の活性化や企業の商品開発、空間演出など多岐にわたる課題が存在しています。それらに対し、芸大生である皆さんがもつ芸術・デザインの力による解決が求められています。社会実装プロジェクトでは企業や自治体から持ちこまれたそれらの社会的課題(仕事)に学年・学科を超えたグループワークで取り組みます。こうしたリアルな体験の過程で「PDCAサイクル」を学び、「組織と個人の関係」といったコミュニケーションに関わる体験など、社会人として必要な能力=社会人基礎力を身につけます。本授業はその上級編になります。	これまでの社会実装プロジェクトでの経験をもとにして、主体的な学修態度の獲得により、定例ミーティング外での、担当役割における準備活動等に積極的に参加することができる。また、担当業務に対する創意工夫、社会人として必要な行動ができる。	社会人として必要となる能力を身につけ、芸術がどのような社会とかわり、社会的な役割を果たしているか、その関係を学び、自分の考えを表現できるようにする。 レベル4:組織において全体統括としての業務を遂行できる。			
KYO84-1-123	入門	プロジェクト	アナログ造形入門	選択	1・2	演習	2	1Q 2Q 3Q 4Q							この授業ではアナログ造形のための基礎的な方法論を学び、その技術を体得することを目的としています。具体的には、水性樹脂による注型成形などのアナログ造形技術を実験的に手を動かしながら試していく作業を行っていき、その中で様々な素材や機材の特性を活かし、柔軟に作り方を考えるものづくりへの態度を身につけていきます。	50	20	30	アナログ造形のための基礎的な方法論を学び、その技術を体得することを目的としています。具体的には、水性樹脂による注型成形などのアナログ造形技術を実験的に手を動かしながら試していく作業を行っていき、その中で様々な素材や機材の特性を活かし、柔軟に作り方を考えるものづくりへの態度を身につけていきます。	注型成形など修得した知識から、新たな加工法を探索し、失敗から得たことを活かす実験的思考をもつづくりに応用することができる。	ウルトラ共通工房のライセンス取得と安全な活用方法を学ぶ事ができる。また、注型成形などの実習を通じて扱った様々な素材、加工技法、機材の使用法についての知識を身につけ、造形に活用することができる。
KYO84-1-124	入門	プロジェクト	デジタル造形入門	選択	1・2	演習	2	1Q 2Q 3Q 4Q							この授業ではデジタル造形のための基礎的な方法論を学び、その技術を体得することを目的としています。具体的には、CADやレーザー加工などのデジタル造形技術を実験的に手を動かしながら試していく作業を行っていき、その中で様々な素材や機材の特性を活かし、柔軟に作り方を考えるものづくりへの態度を身につけていきます。	50	20	30	デジタル造形のための基礎的な方法論を学び、その技術を体得することを目的としています。具体的には、CADやレーザー加工などのデジタル造形技術を実験的に手を動かしながら試していく作業を行っていき、その中で様々な素材や機材の特性を活かし、柔軟に作り方を考えるものづくりへの態度を身につけていきます。	デジタル造形技術など修得した知識から、新たな加工法を探索し、失敗から得たことを活かす実験的思考をもつづくりに応用することができる。	ウルトラ共通工房のライセンス取得と安全な活用方法を学ぶ事ができる。また、デジタル造形実習を通じて扱った様々な素材、加工技法、機材の使用法についての知識を身につけ、造形に活用することができる。
KYO84-1-125	入門	プロジェクト	創造的工房論1	選択	1・2	講義	1	3Q	双方向 遠隔						工房を、自ら新たな価値を生み出す創造的なものづくりを行うための場とするには、という視点から、毎回ものづくりに関わるさまざまな分野の異なる講師が、制作プロセスや研究・開発事例などのおおの創作の現場について講演し、それらの事例から次代のものづくりを見据えて、大学の工房を自分の創造の場として活用することの指針となることを目指します。また、アーティストやデザイナー、建築家、研究者などの創作の現場やプロセスを知り、環境や時代など、ものづくりの背景をより広い視点で捉えることで、創造の場に必要なことについても考察します。本授業はその入門編です。	50	20	30	工房を活かしたクリエイションについて学ぶ:入門	登壇する講師のものづくりに対するこだわりや価値観を文献などを使って調べ上げ、工房とクリエイションの関係を考察しながら工房を自分の制作や研究にどのように活かすことができるかを具体的に想定し、行動計画を立てることができる。	1)クリエイションの現在を知り、新たなものを生み出すことに希望を見出し、自分の興味、関心や将来のビジョンを発見し、実践できる。 2)工房とクリエイションの関係を考察しながら、工房を自分の制作や研究にどのように活かすことができるかを具体的に想定し、活用できる。
KYO84-1-126	基礎	プロジェクト	創造的工房論2	選択	1・2	講義	1	4Q	双方向 遠隔						工房を、自ら新たな価値を生み出す創造的なものづくりを行うための場とするには、という視点から、毎回ものづくりに関わるさまざまな分野の異なる講師が、制作プロセスや研究・開発事例などのおおの創作の現場について講演し、それらの事例から次代のものづくりを見据えて、大学の工房を自分の創造の場として活用することの指針となることを目指します。また、アーティストやデザイナー、建築家、研究者などの創作の現場やプロセスを知り、環境や時代など、ものづくりの背景をより広い視点で捉えることで、創造の場に必要なことについても考察します。本授業はその基礎編です。	50	20	30	工房を活かしたクリエイションについて学ぶ:基礎	入門編に続き、登壇する講師のものづくりに対するこだわりや価値観を文献などを使って調べ上げ、工房とクリエイションの関係を考察しながら工房を自分の制作や研究にどのように活かすことができるかを具体的に想定し、行動計画を立てることができる。	1)クリエイションの現在を知り、新たなものを生み出すことに希望を見出し、自分の興味、関心や将来のビジョンを発見し、実践できる。 2)工房とクリエイションの関係を考察しながら、工房を自分の制作や研究にどのように活かすことができるかを具体的に想定し、活用できる。
KYO84-1-127	入門	プロジェクト	プロジェクト入門	選択	1・2	講義	1	1Q 2Q							社会実装関連科目を運営していくにあたり必要なプロジェクトマネジメントの能力を理解し、実践に役立てていくための授業です。リアルな体験の過程で「PDCAサイクル」を現実的に回していくための準備の仕方、ものづくりや品質、取り組みに対する視点、メンバーサポートに対する視点を鍛え、プロジェクトを俯瞰していく力をつけていきます。	30	20	50	プロジェクト活動に必要な能力とビジネススキルを身につける	主体的な学修態度の獲得により、プロジェクトを円滑に運営する上で必要な課題を自ら抽出し、プロジェクト活動全体の流れを組み立てることができる。	社会人として必要となる能力を身につけ、芸術がどのような社会とかわり、社会的な役割を果たしているか、その関係を理解できる。
KYO84-1-128	基礎	プロジェクト	プロジェクト研究	選択	1・2	講義	1	3Q 4Q							この授業が目的とするのは、プロジェクト活動のリフレクションを行い、その思考方法やスキルを獲得してだけでなく、そうしたプロジェクト活動に自発的に取り組み、なおかつ他者と協働していく作業を通して、学生一人一人が自己理解を深めていくことです。もちろん、社会実装関連科目を運営していくにあたり必要なプロジェクトマネジメントの能力を理解し、実践に役立てていくためのスキルを獲得してもらいます。特に事後的なリフレクション・評価そして次のステップへの繋ぎをどうしていくかを検討していく力を身につけていきます。	20	30	50	プロジェクト活動のリフレクションを行い、自己理解を深める	主体的な学修態度の獲得により、プロジェクトを円滑に運営する上で必要な課題を発見し、体験からの気づきを言語化する習慣を身につけることができる。	社会人として必要となる能力を身につけ、芸術がどのような社会とかわり、社会的な役割を果たしているか、その関係を学び、自分の考えを表現できるようにする。

ナンバリング	段階	科目群	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学修目標	到達目標
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6				
KYO84-2-129	基礎	プロジェクト	プロジェクト・マネジメント1	選択	2・3	講義	1	1Q 3Q			10	60	30			プロジェクトマネジメントとしてのコーチング研究	ファシリテーション・コーチングによってチームのメンバーをサポートするためのプロジェクトマネジメント・コーチングの研究及びスキルアップを目的とします。現状に対しどのような課題を導き出せるか、各自からのさまざまな問題提起に対しディスカッションを通して、新たな「学び方」を探り共有することで、学びの向上および解決力の向上を図ることを目標とします。	プロジェクトマネジメント・コーチングの技法を修得し、プロジェクト運営の中で実験的に活用することができる。また、自らが問題発見→問題提起→解決法の模索を通じ、社会の課題を抽出することができる。	議論を進める中で出てくる問題を分析し、協働で課題を立案できるようになる。立案した課題を実践するために様々なシミュレーションと体験から得た知識を共有できるようになる。課題実現のためのコミュニケーション力を獲得し、より実践的な組織運営方法を身につけることができる。
KYO84-2-130	基礎	プロジェクト	プロジェクト・マネジメント2	選択	2・3	講義	1	2Q 4Q			10	60	30			プロジェクトマネジメントとしてのコーチング実践	ファシリテーション・コーチングによってチームのメンバーをサポートするためのグループによるマネジメント・コーチングの実践及びスキルアップを目的とします。現状に対しどのような課題を導き出せるか、各自からのさまざまな問題提起に対しディスカッションを通して、新たな「学び方」を探り共有することで、学びの向上および解決力の向上を図ることを目標とします。	プロジェクトマネジメント・コーチングの技法を修得し、プロジェクト運営の中で実験的に活用することができる。また、自らが問題発見→問題提起→解決法の模索を通じ、社会の課題を抽出し、具体的な解決に取り組むことができる。	議論を進める中で出てくる問題を分析し、協働で課題を立案できるようになる。立案した課題を実践するために様々なシミュレーションと体験から得た知識を共有できるようになる。課題実現のためのコミュニケーション力を獲得し、良好な組織運営に向けて具体的に計画を設計できるようになる。
KYO84-2-131	基礎	プロジェクト	プロジェクト・マネジメント実習	選択	2・3	実習	2	夏期集中				60	40			グループマネジメントの研究と実践	この実習では、多種多様な意見を持つ個人が集まり協働するグループの運営とマネジメントのスキルを身につけてもらうことを目的としています。具体的には、ファシリテーション・コーチングによってチームのメンバーをサポートするためのグループによるマネジメント・コーチングを実践します。グループのアイデアやコンセプトを基に、協働で成果をつくり上げるために、グループを支援します。	クラス等の組織的運営のマネージメントと共に協働で成果物をつくり上げるリーダーシップ力を培うことができる。	クラス等の組織的運営によりグループマネジメント力が修得できるようになる。
KYO84-3-132	応用	プロジェクト	プロジェクトゼミ1	選択	3・4	講義+演習	2	1Q 3Q					40	30	30	社会課題に対応するプロフェッショナルゼミ1	「芸術と社会の関係」を学び、「社会人として必要とされる能力」を身につけるための実践カリキュラムの1です。社会には地域の活性化や企業の商品開発、空間演出など多岐にわたる課題が存在しています。それらに対し、芸大生である皆さんがもつ芸術・デザイン力による解決が求められています。本ゼミは、社会実装プロジェクトのアドバンスプログラムとして位置付けます。	主体的な学修態度の獲得により、定例ミーティング外での、担当役割における準備活動等に積極的に参加することができる。また、ゼミ内の担当業務に対する創意工夫、社会人として必要な行動ができる。	ゼミ1での経験を通して社会人として必要となる能力を身につけ、芸術がどのような社会とかわかり、社会的な役割を果たしているか、その関係を学び、自分の考えを表現できるようになる。
KYO84-3-133	応用	プロジェクト	プロジェクトゼミ2	選択	3・4	講義+演習	2	2Q 4Q					40	30	30	社会課題に対応するプロフェッショナルゼミ2	「芸術と社会の関係」を学び、「社会人として必要とされる能力」を身につけるための実践カリキュラムの2です。社会には地域の活性化や企業の商品開発、空間演出など多岐にわたる課題が存在しています。それらに対し、芸大生である皆さんがもつ芸術・デザイン力による解決が求められています。本ゼミは、社会実装プロジェクトのアドバンスプログラムとして位置付けます。	主体的な学修態度の獲得により、定例ミーティング外での、担当役割における準備活動等に積極的に参加することができる。また、ゼミ2内の担当業務に対する創意工夫、社会人として必要な行動ができる。	ゼミ2での経験を通して社会人として必要となる能力を身につけ、芸術がどのような社会とかわかり、社会的な役割を果たしているか、その関係を学び、自分の考えを表現できるようになる。
KYO85-1-134	基礎	日本文化	伝統文化演習1邦楽囃子	選択	1・2	演習	2	1Q			20	30	50			邦楽囃子を学ぶ	「邦楽囃子」(藤舎流・藤舎先生)日本の古典舞台芸術の大きな構成要素である「邦楽囃子」について、小鼓と太鼓を修得する過程から、日本の伝統や独自の芸術感覚に対するより深い理解が得られるよう実演を中心として研究を行います。座学だけでは得られない、身体感覚を震わせながら「邦楽囃子」を体得していく演習です。	・邦楽囃子について学び、授業で習った小鼓と太鼓の曲目を演奏できるようになる。	日本人独特の繊細な感覚を理解し、邦楽の世界への理解を深める。
KYO85-1-135	基礎	日本文化	伝統文化演習2日本舞踊・京舞	選択	1・2	演習	2	1Q 2Q			20	30	50			日本舞踊を学ぶ、京舞を学ぶ	「日本舞踊」(坂東流・坂東先生) 「日本舞踊」(藤間流・藤間先生) 「京舞」(井上流・井上先生)日本文化を支える精神を学ぶための演習授業です。伝統の上に初めて新しい創造が可能になるために、日本人の伝統的な身体感覚を知ることは大変重要です。実践を通じて芸術大学で学ぶみなさんにとって大事な感覚を養っていきます。	・日本舞踊について学び、授業で習った演目を踊ることができるようになる。 ・京舞について学び、授業で習った演目を踊ることができるようになる。	舞踊の身体を通して伝統的な日本文化を知る(坂東先生)。日本舞踊を踊れるようになる(藤間先生)。日本舞踊を舞うことができるようになる(井上先生)。
KYO85-1-136	基礎	日本文化	伝統文化演習3常磐津・琵琶	選択	1・2	演習	2	1Q 2Q 3Q			20	30	50			常磐津を学ぶ、琵琶を学ぶ	「常磐津(三味線)」(常磐津先生) 「琵琶」(奥村先生)日本文化を支える精神を学ぶための演習授業です。新しい芸術の創造は、伝統を理解し、その上に初めて可能となるものです。そのために、日本人の伝統的な身体感覚を知ることは大変重要な経験となります。実践を通じて芸術大学で学ぶみなさんにとって大事な感覚を養っていきます。	・常磐津について学び、授業で習った曲を演奏できるようになる。 ・琵琶について学び、授業で習った楽曲等を演奏できるようになる(歌を含む)。	三味線を弾くことができるようになる。(常磐津先生)琵琶を弾くことができるようになる。(奥村先生)
KYO85-1-137	基礎	日本文化	伝統文化演習4能・狂言・落語	選択	1・2	演習	2	1Q 3Q			20	30	50			能を学ぶ、狂言を学ぶ、落語を学ぶ	「能」(観世流・井上先生) 「狂言」(大蔵流・茂山先生) 「落語」(林家染雀先生)日本文化を支える精神を学ぶための演習です。新しい芸術の創造は、伝統を理解し、その上に初めて可能となるものです。そのために、日本人の伝統的な身体感覚を知ることは大変重要な経験となります。実践を通じて芸術大学で学ぶみなさんにとって大事な感覚を養っていきます。	・能、狂言、落語、それぞれについて学び、授業で習った演目等を上演できるようになる。	謡、仕舞ができるようになる。(井上先生)基本所作や謡ができるようになる。(茂山先生)落語の概念、所作を通して、コミュニケーション力を上げ、自身の言語表現を拡大させることができる。
KYO85-1-138	基礎	日本文化	伝統文化演習5華道・装花	選択	1・2	演習	2	1Q 3Q			20	30	50			華道を学ぶ、装花を学ぶ	「華道」(未生流・小林先生) 「華道」(池坊・今川先生)華道は、命ある花を活かす「時間芸術」であり、花の表情を捉え表現する「空間芸術」です。授業では、季節の花を扱いながら現代花・古典花をはじめオブジェまで、各自幅広い制作を行い、展示する機会を設けます。「装花」(岸先生)授業では花を生ける仕事をしている講師と共に、花を生ける技術・色彩・スタイルと花の表現力によるアートプロデュースを学びます。花を生ける技術は基より、花に向かい合う気持ちも大切に考えていきます。そのことにより日本人の持つ伝統的な美意識と再会することができ、デザインやセンスだけでなく美の品格の奥深さを発見することを目指します。	・華道について学び、授業で習った実践等を行うことができるようになる。 ・装花について学び、授業で習った実践等を行うことができるようになる。	花を活け、立体造形・空間造形の感性を養うことができるようになる。実践を通して、生け花の本質を探り、表現を通して自分自身を知ることができるようになる。(小林先生)花を活け、空間造形の感性を養う。(今川先生)花を向き合うことにより生まれるデザインや美意識を高め、花を生ける所作より生命・自然への畏敬と共にある花の芸術性を自らの力で表現出来る力をつける。(岸先生)

ナンバリング	段階	科目群	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学修目標	到達目標
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6				
KYO85-1-139	基礎	日本文化	伝統文化演習6煎茶	選択	1・2	演習	2	1Q 2Q 3Q 4Q			20	30	50			煎茶を学ぶ	「煎茶」(小川流・小川先生) 煎茶という伝統文化を、座学と体験学習により基本的な知識を修得するとともに、伝統文化に広がる様々なものの考え方について理解を深めます。江戸時代の文人達によって大成された煎茶は、当時の画家、陶芸家、詩人、学者達が文人の余技として愛好し、独特の文雅な喫茶の世界を築いてきました。しかし現代では、日常あまりに親しい煎茶だけに、茶の湯と異なるもう一つの茶道としての歴史や、その芸術の世界はあまり知られていません。そこで、歴史や作法の面から煎茶の世界を理解するとともに、京都で二百年以上前から続く小川流の「滴々のお茶」と称される茶味により、味覚の面からもその理解を一層深めます。	・煎茶について学び、授業で習った実践等を行うことができるようになる。	茶室における礼節や作法、茶葉の特性や道具の役割、そして芸術にも至る煎茶独特のしつらいについて説明することができる。また、喫茶史を煎茶の視座から見直し、煎茶道の形成過程に近世文人の果たした役割の大きさを知り、どのような展開を経て今日に至ったのかを説明することができる。そして、伝統文化である煎茶を、高度なコミュニケーションツールとして、今後の自分の生活や活動の中に生かすことができる。
KYO85-1-140	基礎	日本文化	伝統文化演習7和装	選択	1・2	演習	2	1Q 3Q			20	30	50			和装を学ぶ	「着付け」(服部先生) 着付けを学び、自分で着れるようになることで、伝統文化を身近に感じることを目的としています。和装の独自の味わいを知り、関心を深めてもらいます。着物を着るとはどのようなことを知り、着付けの小物の説明と使い方の練習・長襦袢、着物の畳み方・準備の仕方と片付け方、着付けの動作の練習と布の扱い方、半幅帯の結び方、着物立ち居振る舞い、着崩れについて学習していきます。	・着付けについて学び、授業で習った着付けの実践等を行うことができるようになる。	着物を自分で着ることができるようになる。15分で着物を自分で着る、片付けられる。
KYO85-1-141	基礎	日本文化	伝統文化演習8水墨画	選択	1・2	演習	2	1Q 3Q			20	30	50			水墨画を学ぶ	「水墨画」(李先生) 水墨画は東方を代表する芸術表現の一つです。この授業では世界歴史文化遺産の敦煌、故宮博物院をはじめ世界各地の博物館にある名品から精選した資料を分析しながら、水墨画の基本技法を学びます。さらに「素材と表現」では、墨・紙・水の関係から墨による表現の可能性を実践をとおして探っていきます。	・水墨画について学び、授業で習った実践等を行うことができるようになる。	「墨の文化」の形と型の研究。水墨画に関する基礎技法の把握。
KYO85-1-142	基礎	日本文化	伝統文化演習9和太鼓	選択	1・2	演習	2	1Q 2Q 3Q			20	30	50			和太鼓を学ぶ	「和太鼓の実技を通して自身の殻を破り、人間力を高める」(野田先生) 日本の伝統的な楽器「和太鼓」を通して音とパフォーマンスの関係性を学び、心と身体の活かし方を学びます。基礎技術を習得することはもちろんのこと、主体性や協調性を養うと共に、各々に潜んでいる響き合う心、感動する心を目覚めさせ、命あるものとしてのエネルギーを大いに発揮し、1つの課題曲を習得します。最終日にグループで課題曲の発表を行います。	・和太鼓について学び、授業で習った楽曲等を演奏できるようになる。	コミュニケーション能力を身に付けることができる。 和太鼓の歴史を知ると共に基本的な打法を身に付けることができる。
KYO85-1-143	基礎	日本文化	伝統文化演習10演劇	選択	1・2	演習	2	3Q			20	30	50			演劇を学ぶ	この授業では演劇に関する学びを通して、受講生各自の身体性を客観的に省察し、身体表現における可能性や自己理解・表現についての領域拡大を目指すとともに、日常生活や実社会において有効なコミュニケーション能力を身につけます。 演技や舞台演出の基礎を学びながら、身体の動きや姿勢、表情を通じて感情や物語を表現する技術を体験し、役割を演じる際の創造性や表現力を養います。	・演劇について学び授業で習った実践等を行うことができるようになる。	知識・演劇や舞踊など舞台芸術に関する表現手法、演出、鑑賞の仕方について基本的な知識について学ぶことができる。 態度:対話をベースとした言語と身体による表現芸術を体験することにより、多様な視点を持って他者の経験や感情を共有することが出来る。 技能:自己表現力を豊かにすることによって、実生活や実社会でのコミュニケーション能力を高めることができる。
KYO85-1-144	基礎	日本文化	伝統文化演習11茶道	選択	1・2	演習	2	1Q 3Q			20	30	50			茶道を学ぶ	「茶の湯を楽しむ」(裏千家・北見先生) 茶道は現在、日本を代表する伝統文化として世界中に知られるようになりました。しかし、一般的には未だ礼儀作法のための稽古事という感覚でとらえる人が多い状況です。茶の本質は亭主と客のまじわりがとても大切で、点前作法の要素はそれを実現させるものであり、お茶のみならず日本の生活文化そのものが、茶の湯と密接な関係にあることを学ぶ授業です。	・茶道について学び、授業で習った実践等を行うことができるようになる。	1. 日本の四季折々の季節を掛軸、茶花などから敏感に感じ取れる。 2. 御茶・菓子への頂き方、挨拶など客として振る舞いができる。 3. 点前を通して、亭主としてのもてなしの心が理解できる。
KYO85-1-145	基礎	日本文化	伝統文化演習12茶道	選択	1・2	演習	2	2Q 4Q			20	30	50			茶道を学び、深める	「茶の湯を楽しむ」(裏千家・北見先生) 茶道は現在、日本を代表する伝統文化として世界中に知られるようになりました。しかし、一般的には未だ礼儀作法のための稽古事という感覚でとらえる人が多い状況です。茶の本質は亭主と客のまじわりがとても大切で、点前作法の要素はそれを実現させるものであり、お茶のみならず日本の生活文化そのものが、茶の湯と密接な関係にあることを学び、深める授業です。	・茶道について深く学び、授業で習った実践等を行うことができるようになる。	1. 日本の四季折々の季節を掛軸、茶花などから敏感に感じ取れる。 2. 御茶・菓子への頂き方、挨拶など客として振る舞いができる。 3. 点前を通して、亭主としてのもてなしの心が理解できる。 これらの点をより深く習得することができる。
KYO85-1-146	基礎	日本文化	京都学1	選択	1・2	講義	1	3Q	双方向 遠隔		70			30		京都で育まれた日本の伝統と文化の真髄を研究する	古くから天皇や茶道、華道、能、狂言などの家元、寺院の本山などに用いられ、京都の伝統工芸(産業)は、こうした厳しい使い手の要求に答える過程を通じて、技術を磨いてきました。本講義においては、京都の町衆によって長い年月をかけて継承しながら創り出されてきた他に類を見ない京都の伝統・文化の本質を捉え研究していきます。そのため、こうした京都の伝統文化や伝統工芸に携わっておられる京都の各界でご活躍されている皆様にご登壇いただき、各々の視点から「京都」の魅力フォーカスします。	・研究編でご登壇いただいた講師の話によって得た知識を事後学習によって深め、そこで理解された京都における伝統・文化のあり方とものづくりに対する姿勢を自身の制作・研究に反映させることができる。 ・これらの制作・研究について具体的な施策をもって行動にうつすことができる。	研究編において京都の伝統を支える美意識を学ぶことを通じて、ものづくりに対する姿勢を学ぶ、とともに、その姿勢を自らのものづくりに活かすことができるようになる。
KYO85-1-147	基礎	日本文化	京都学2	選択	1・2	講義	1	4Q	双方向 遠隔		70			30		京都で育まれた日本の伝統と文化の真髄を探究する	古くから天皇や茶道、華道、能、狂言などの家元、寺院の本山などに用いられ、京都の伝統工芸(産業)は、こうした厳しい使い手の要求に答える過程を通じて、技術を磨いてきました。本講義においては、京都の町衆によって長い年月をかけて継承しながら創り出されてきた他に類を見ない京都の伝統・文化の本質を捉え研究していきます。そのため、こうした京都の伝統文化や伝統工芸に携わっておられる京都の各界でご活躍されている皆様にご登壇いただき、各々の視点から「京都」の魅力フォーカスします。	・探究編でご登壇いただいた講師の話によって得た知識を事後学習によって深め、そこで理解された京都における伝統・文化のあり方とものづくりに対する姿勢を自身の制作・研究に反映させることができる。 ・これらの制作・研究について具体的な施策をもって行動にうつすことができる。	探究編において京都の伝統を支える美意識を学ぶことを通じて、ものづくりに対する姿勢を学ぶ、とともに、その姿勢を自らのものづくりに活かすことができるようになる。
KYO85-1-148	基礎	日本文化	日本芸能史1	選択	1・2	講義	1	1Q			60			40		芸能と芸道から日本を学ぶ:春	各芸能の第一線で活躍する研究者、実演者という本物の専門家をお招きし、芸能史の核となる毎回のテーマに沿ってその研究成果を歴史や具体的な事例から紐解いていきます。また、さらに舞台上で展開可能な実演を披露いただき、芸能や芸道における意味や伝統、価値観、解釈などを読み解き、日本芸能史の知見を深めます。(春編)	・春編の日本の伝統文化の価値を知り、自身の芸術活動に活かすことができる。	春編の日本の文化の本質を自分のことばで説明することができる。
KYO85-1-149	基礎	日本文化	日本芸能史2	選択	1・2	講義	1	2Q			60			40		芸能と芸道から日本を学ぶ:夏	各芸能の第一線で活躍する研究者、実演者という本物の専門家をお招きし、芸能史の核となる毎回のテーマに沿ってその研究成果を歴史や具体的な事例から紐解いていきます。また、さらに舞台上で展開可能な実演を披露いただき、芸能や芸道における意味や伝統、価値観、解釈などを読み解き、日本芸能史の知見を深めます。(夏編)	・夏編の日本の伝統文化の価値を知り、自身の芸術活動に活かすことができる。	夏編の日本の文化の本質を自分のことばで説明することができる。

ナンバリング	段階	科目群	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学修目標	到達目標					
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6									
KYO85-1-150	基礎	日本文化	日本芸能史3	選択	1・2	講義	1	3Q							60		40			各芸能の第一線で活躍する研究者、実演者という本物の専門家をお招きし、芸能史の核となる毎回のテーマに沿ってその研究成果を歴史や具体的な事例から紐解いていきます。また、さらに舞台上で展開可能な実演を披露いただき、芸能や芸道における意味や伝統、価値観、解釈などを読み解き、日本芸能史の知見を深めます。(秋編)	秋編の日本の伝統文化の価値を知り、自身の芸術活動に活かすことができる。	秋編の日本の文化の本質を自分のことばで説明することができる。		
KYO85-1-151	基礎	日本文化	日本芸能史4	選択	1・2	講義	1	4Q							60		40			各芸能の第一線で活躍する研究者、実演者という本物の専門家をお招きし、芸能史の核となる毎回のテーマに沿ってその研究成果を歴史や具体的な事例から紐解いていきます。また、さらに舞台上で展開可能な実演を披露いただき、芸能や芸道における意味や伝統、価値観、解釈などを読み解き、日本芸能史の知見を深めます。(冬編)	冬編の日本の伝統文化の価値を知り、自身の芸術活動に活かすことができる。	冬編の日本の文化の本質を自分のことばで説明することができる。		
KYO85-1-152	基礎	日本文化	日本芸能史特論	選択	1・2	講義	1	1Q 3Q	双方向 遠隔						50		30	20		作品作りや芸術表現を行う際に役に立つ、通史的芸能史(伝統芸能・民俗芸能)を学びます。日本に育まれた芸能とその心について、写真・映像資料等を通じて総合的に学びます。学びを通じて感性を磨き、日本人としてのアイデンティティーや自らの芸術活動の土台を構築しましょう。自らの無意識やそこから生じる価値観を支配する文化の特質を知ることは、芸術表現を行う者にとって大切なことです。	日本の伝統芸能・民俗芸能を学び、授業の成果物(レポート、もしくは授業内容に関連したオリジナル作品)等を通して、創造的な表現活動を行うことができる。	日本独自の芸能に興味を持つ。通史的な日本芸能史(伝統芸能・民俗芸能)の知識を得る。日本の豊かな芸能文化を知り、自身の芸術表現や制作活動に生かすことができる。実演家の先生方による授業(日本芸能史《春秋座》・伝統文化演習)の内容を、歴史的・通史的事項として、捉えなおすことができる。		
KYO85-2-153	基礎	日本文化	伝統文化特論	選択	2・3	講義	1	2Q 4Q	双方向 遠隔						50		30	20		日本美術・日本文学のおさえておきたい基礎的重要事項を学びながら、伝統芸能と美術工芸等が形作る日本文化の姿を総合的に学びます。屏風絵や美術工芸などにあらわされた意匠を知り、絵師や作家の様々な表現の工夫を学ぶことで、感性を研ぎ澄まし「自分だけの芸術(作品)」を生みだす土台を構築します。異文化としての琉球文化・琉球芸能も取り上げ、日本文化との比較のなかから文化の独自性と特質を捉えなおします。	日本美術・伝統芸能の観点から日本文化を捉える視点を養い、授業の成果物(レポート、もしくは授業内容に関連したオリジナル作品)等を通して、創造的な表現活動を行うことができる。	日本の文化を、総合芸術としての伝統芸能、そして、日本の美術(絵画・工芸)・文学などから体系的に理解する。国指定重要文化財・重要無形文化財ほか日本の優れた芸術(絵画・芸能)を学び、伝統に基づいた芸術表現(創造)ができるようになる。表現の方法やテーマの選び方を伝世品から学び、オリジナルの作品を生み出せるようになる。		
KYO86-1-154	入門	キャリア	キャリア研究基礎	選択	1	講義	1	3Q	双方向 遠隔						30	60	10			理想の学生生活・将来設計(進路)をつくる	卒業後のキャリアビジョンを踏まえた理想的な学生生活づくりに向けて、自らゴール(到達目標点)を描き、具体的な活動計画を策定して実行することができる。	理想的な学生生活づくりに向けて、自らゴール(到達点)を描き、行動することができる。		
KYO86-2-156	基礎	キャリア	キャリア研究応用	選択	2	講義	1	3Q 4Q	双方向 遠隔						40	40	20			自己と職業への理解を深め、インターンシップの準備と実践を行う	3年次から始まるインターンシップ・就職活動に向けて、準備を行うための授業です。1. 自己理解(自身の活動をふりかえり、言語化する) 2. 職業理解(世の中にある職業・業界、さらに先輩の就職先をモデルに企業分析する) 3. 志望業界・職種を「やりたい」と「できる」の2方向で定め、4. 3年次4月～行動計画を立て、実践します。	到達目標に示された4つのゴールを完遂し、インターンシップへの応募など企業からの一次情報収集をより積極的に行い、自身の将来に向けたビジョンの拡大、深化を図ることができる。	1. 履歴書完成＝自身の活動を言語化できる。 2. 志望する2つ以上の職種・業界を見つけ、研究できている。 3. 就職ナビサイトの使い方がわかり、エントリーできる状態をつくる。 4. インターンシップ応募企業を5社以上見つけている。	
KYO86-3-159	応用	キャリア	就職対策特講	選択	3	講義	1	1Q 2Q	双方向 遠隔						40	30	30			インターンシップ・就職活動に向けて、準備＆実践する	インターンシップに向けて、自己理解・企業分析・履歴書作成・ナビ登録・エントリー・グループディスカッション、面接などまで、すべてを実践的に行います。全授業を受けることで、就職準備を8割方完成させることをゴールとしています。授業は講義だけではなく、受講者同士の対話を中心にグループワークを多用します。この点を承知の上で受講してください。	到達目標に示されたゴールを完遂し、その中で提供される就職活動に向けた様々な取り組みをより積極的に実践して、自身のキャリアビジョンを言語化することができる。	自己PR300文字程度を完成させ、その内容を大学スカウトに登録完了。就職ナビサイトを使って夏インターンシップ実施企業5社以上にエントリーできており、選考対策(グループディスカッション・面接・Webテスト)を一通り実践し、自分で就活を進められる。	
KYO86-2-157	基礎	キャリア	外国人留学生のキャリア研究	選択	2・3	講義	1	1Q 2Q							40	40	20			日本企業へ向けた就職活動の準備、実践	3年次から始まる企業でのインターンシップや日本・日系企業への就職活動に向けて、1.自己分析、2.業界分析、3.企業分析、4.志望動機の設定、5.履歴書作成の注意点、6.採用面接における想定回答、7.ビジネス日本語のポイント等を学ぶ。不明瞭な未来(やりたい/なりたい)を明確な未来(できる/なる)へと変化させていきます。	到達目標に示されたゴールを完遂し、その中で提供される就職活動に向けた様々な取り組みをより積極的に活用して、日本国内における自身のキャリアビジョンを持つことができる。	1. 履歴書を完成できる。 2. 志望する職種・業界を見つけ、研究できる。 3. 就職ナビサイトの使い方がわかり、エントリーできる。 4. インターンシップ応募企業を5社以上見つけている。 5. 日本の就職活動のスケジュールをわかるようになり、適切に早めに行動できる。 6. 就職のためにビジネス日本語の必要さを理解し、学習できる。 7. 企業が学生に求めているものをわかる。	
KYO86-2-158	基礎	キャリア	ビジネスポートフォリオ	選択	2・3	演習	2	1Q 3Q									30	40	30		就職活動に向けたポートフォリオのデザイン	芸術系大学の学生として、就職活動に必修となるポートフォリオの制作をおこなう授業です。フォーマットの作り方から書体選択や希望企業に合わせた作品の掲載順などを含めたレイアウト方法、製本方法などを身につけます。作品集と違って、ポートフォリオというものは、作品の良さだけを見せるだけではなく、その制作者自身を見せることが大切です。	身につけた紙面デザインの基礎知識を活用し、書体、レイアウト、製本方法を工夫した制作者本人が見えるポートフォリオを作ることができるようになる。	ポートフォリオ制作から紙面デザインの基礎知識を理解できるようになる。紙面上の空間意識を高め、適切な文字の選択とレイアウトができるようになる。
KYO86-1-155	入門	キャリア	ビジネス企画入門	選択	1・2	講義	1	1Q 2Q	双方向 遠隔						40		30	30		商品や作品を顧客が購入する理由を顧客ニーズの理解を通じて学ぶ	人は「なぜ」その商品(作品)を欲するのか?を起点に、顧客の「ニーズ」を深く理解し、本当に欲しいと思わせる商品(作品)を生み出すための思考法や手法をビジネス的観点から学習します。この授業で学ぶビジネス企画の基礎は、芸術活動で生きていくことを目指す学生にとって「自らの作品を世に出すことを、就職先で新しい挑戦をする学生にとっては自らの人材価値を高めることを、そして起業することを旨とする学生にとっては提供する商品/サービスを考えてこれからは生き抜いていくための基礎スキルとなります。	商品(作品)が顧客に選ばれている理由をとらえる基礎的な思考法や手法が身につけている。	商品(作品)が顧客に選ばれている理由をとらえる基礎的な思考法や手法が身につけている。また、そのビジネス的観点で自らのキャリア目標(芸術家、就職、起業等)を表現できる基礎的な能力を獲得できている。	
KYO87-1-160	入門	副専攻	メディア・テクノロジー概論	副専攻必修	1・2	講義	2	1Q 3Q	双方向 遠隔						60		40			メディア・テクノロジー副専攻の学ぶべきテーマと事柄を理解する	メディア・テクノロジー副専攻でとりあげるテーマを概観し、本副専攻で学ぶべきことがらを理解し、それを自身の興味と照らし合わせ、選択科目の選択・総合演習のテーマを素描できるようにすること、メディア・テクノロジーを用いるための作法(リテラシー)を、オールドメディア・ニューメディアにとらわれずに身につけることを目的とする。	・メディアテクノロジー専攻の趣旨を理解する ・メディアテクノロジーと自己の興味関心を関連づけることができる ・本副専攻において主体的に科目選択を行う姿勢を身につける。	テクノロジーの最先端を知り、芸術・デザインとの接点を考えることができるようになる。	
KYO87-2-175	基礎	副専攻	メディア・テクノロジー特論1	副専攻必修	2・3	講義・演習	2	2Q							50		20	30		データ・サイエンス(リサーチ)データ収集のアナザーモデルオープンソースなデータを発見する	自身の専門に関連する事象や自身の興味のあることがらについて、専門的もしくはオープンソースのものなどの様々な種類のデータ(エビデンス)を発見・収集し、それらを分析・整理することで、リサーチの対象について直感では把握することが難しい、新しい洞察や理解を可視化し、他者に効果的に伝えるための能力を獲得する。	高度なデータ収集能力: 学生は専門的なデータ収集やオープンソースのデータに独自の視点からアクセスする事で、信頼性のあるデータを効果的に取得・組み合わせる事で、複雑な問題に対処する能力を身につける。リサーチスキルの向上: 学生は自身の関心領域におけるリサーチスキルを向上させ、データを集めるだけでなく、緻密に分析し、洞察を得る事で、データを整理・可視化し、他者に効果的に伝える能力を磨く。	データの収集・分析をもとに、レポートを書いたり、作品のコンセプトを作ることができるようになる。データの処理・分析にあたっては、複数のデータ間の相関係数、有意差検定など実用的な操作・概念を理解する。	

ナンバリング	段階	科目群	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学習目標	到達目標							
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6											
KYO87-2-176	応用	副専攻	メディア・テクノロジー特論2	副専攻必修	2・3	講義+演習	2	4Q							50		20	30					データ・ビジュアライゼーションデータとアウトプットの物語化スコア・記譜法	様々な視点・方法から収集された各種データを、どのような物語性(内容)でアウトプット(表現)できるかについて実践的な経験を通して理解するために、所謂多様なメディア(画像、動画、WEB、インタラクティブメディアetc.)を活用しながら模索する。同時に、メディアをデジタルに限定せず、アナログ表現の使用も積極的に認める事で、メディアそのものの多義性についても理解を深める。	高度なデータ・ビジュアライゼーションのスキル: 学生は豊富で異なるデータセットに対応するために適切なグラフやチャートを選択し、情報を効果的に伝える為の高度なビジュアライゼーションのスキルを身につける。物語化の能力: 学生はデータを物語に組み込む能力を向上させる。データの背後にある意味や文脈を理解し、それを効果的に視覚的に表現することで、データに命を吹き込むスキルを身につける。	分析されたデータにふさわしい表現を考案することができるようになる。対象の客観像がふれないよう、抽象的な表現方法を避け、具体的な表現を行うことを目標とする。
KYO87-2-177	発展	副専攻	メディア・テクノロジー総合演習	副専攻必修	2・3	演習	2	1Q 3Q									30	40	30				ファイナル・プロジェクト	メディア・テクノロジー概論を含めた必修科目3科目と選択科目2科目(以上)での学びを踏まえ、学生自身でファイナル・プロジェクトのテーマを設定し、各種リサーチやデータ収集、整理と組合せを通して効果的なビジュアライゼーションに至るまでの一連のルート・プロセスを主体的に実践する事で、メディア・テクノロジー領域における総合的な能力を習得する。	これまでのメディア・テクノロジー領域における学習を活かし、データ収集や物語化、効果的なデータビジュアライゼーションを通して、独自性のあるアウトプットができていく。	自身のテーマを見つけ、それに対して客観的な観察・分析を行い、さらにそれをアート・デザイン的なアウトプットへと接続できるようになる。
KYO87-1-161	入門	副専攻	オルタナティブ・アート概論	副専攻必修	1・2	講義	2	1Q 3Q	双方向 遠隔						60								オルタナティブ・アートの基礎概念と副専攻の学習内容/形式の理解	現代の「芸術立国」のあるべき姿を学生個々の視点から改めて見出し、現代の「人間と自然」もしくは「芸術と社会」の関係性を、アートに関連する様々なことや事例、文脈を繋ぎ直すことを通して理解することで、一般的な理解とは別様の芸術解釈、アートの潜勢を思い描くための基礎力を醸成する。	現代社会における芸術/アートの多義性/多重性に関連する文脈や事例を学び、「自然と環境」、「芸術と社会」に対して自己の概念化を行い、アートの潜勢を適切に他者に伝えることができる。	・「自然」と「環境」の概念を各々の解釈で言語化できる ・「芸術」と「社会」の関連について深い理解のもと言葉や作品などで表現することができる ・既存概念とは違うアートの潜勢を見出し、他者に適切に伝えることができる。
KYO87-2-178	基礎	副専攻	オルタナティブ・アート特論1	副専攻必修	2・3	講義+演習	2	2Q							50		20	30					二元化から逸脱するアートに関する考察	「自然」という概念の中に含まれる人類や物質の歴史、それらに含まれる人工性に関連する現代の様々な学問分野の研究事例に触れながら、「自然と人工」、「アナログとデジタル」など、様々な二元化に潜む不可分性を理解することで、芸術領域における多種多様な芸術理解から逸脱するオルタナティブな活動や解釈を理解する。	「人類と自然」という対比構造が生まれる文脈や経緯を知る事で、自然+人工、人類+他生物、男性+女性、アナログ+デジタルといった二元論的な思考から逸脱し、新しい形を具体的にイメージできるようになる。	・「自然」と「人工」の不可分性を認識することができる ・二極化される物事の事例を各々が顕在化することができる ・様々な二元化から逸脱するアートの道を描くことができる。
KYO87-2-179	応用	副専攻	オルタナティブ・アート特論2	副専攻必修	2・3	講義+演習	2	4Q							50		20	30					実社会におけるオルタナティブ・アートの活用に向けて	古代から現代の社会/文化における諸問題の発見と解決のために、様々な状況の中で多様な芸術が人々の生の中に取り入れられ、また応用されてきた事例を広範な領域から認識し、それらに対する理解を実践的な活動のスタイルとして体現していく、行動としてのオルタナティブ・アートの在り方について、参加者各々と共に模索していく。	様々な事例研究を通して自分なりにオルタナティブ・アートを理解した上で、社会と芸術の関わりの中で生まれる経験的な姿勢としてのアートの技術を学生が主体的に実践することができる。	・ギリシア〜ブロンクスまでの芸術の変遷を理解することができる ・現代におけるオルタナティブな芸術の在り方を事例として発見できる ・ある既存事例の応用/活用方法をイメージし、可視化することができる。
KYO87-2-180	発展	副専攻	オルタナティブ・アート総合演習	副専攻必修	2・3	演習	2	1Q 3Q										30	40	30			オルタナティブ・アートとしての芸術立国のプロトタイプング	オルタナティブ・アート領域に関連する各科目での学習のまとめとして、改めて2020年代における「芸術立国」の潜勢をリサーチし、各々が考える課題やポテンシャルを概念化し、計画として可視化することで、オルタナティブ・アートの概念に基づいた実践を各々が実行し、芸術立国の新しい解釈を提示する。(事例探求・計画立案・実践・振り返り)	オルタナティブ・アートに関する様々な知識に基づいて、個々の新しいスキルとしてのオルタナティブな思考と姿勢を、学生が主体的・批判的に実践できるようになる。	・「芸術」に関連するオルタナティブな先行事例を調査できる ・2020年代における別様の芸術の潜在性を言語化できる。 ・計画した物事を実践し、批判的に振り返ることができる。
KYO87-1-162	入門	副専攻	ソーシャル・イノベーション概論	副専攻必修	1・2	講義	2	1Q 3Q	双方向 遠隔						60								ソーシャル・イノベーション副専攻で学ぶテーマと事柄を理解する	新しい時代では、ものをいかにつくるかだけでなく、どんな社会になればいいのか、社会が何を必要としているのか、課題解決を含めて、社会創生をしていくことが問われます。考えの前提となる様々な社会課題や状況、背景の捉え方、それに対する解決のための理論や実践を各領域の専門家の方から講義を受け、地域デザイン、多様性を実現するコミュニティ、地球環境のサステナビリティのためのプログラム、プロジェクトデザインなどさまざまな知識や手法を学び、俯瞰的視点で社会変革を構想していける学習を目的とします。	・ソーシャル・イノベーション領域の概要を理解し、自らの意見を的確な内容で論じることができる。 ・各デザインジャンルにおける理論や知識、実践内容を知り、それに対して自分の考えで積極的にリサーチし、独自の着眼点、新しい意味をもった考察ができるようになる。	・各専門家のデザイン領域を通じてソーシャル・イノベーション領域の概要を理解し、自らの意見を持つことができる。 ・各専門家のデザイン領域における理論や知識、実践内容を知り、それに対する理解をもとに自分の考えによってリサーチや考察ができるようになる。
KYO87-2-181	基礎	副専攻	ソーシャル・イノベーション特論1	副専攻必修	2・3	講義+演習	2	2Q							50		20	30					ソーシャル・イノベーションの視点から企画する地域デザイン	ソーシャルイノベーションにおける社会創生では、地域、環境、文化、多様性などに変革をもたらすことをめざしていく。地域における活性化の試みは現在進みつつあるが、さらなる展開を考える上で、新しい地域デザインの方向性とは何か、を考えることが必要となっている。都市における機能の交差するようなくみや、オフィスビジネスによらない生産の転換、緑化など、さまざまな検討がありえるであろう。授業では都市への地域デザイン論として地域行政や政策、現在の事例研究を通じて講義で学び、演習では新しい地域のデザイン方針を問うべく、実際に地域調査を行い、企画やデザインを通じて地域デザインを構想する。	・地域デザインに関わる様々な取り組み主体性を持って学び、そのプロセスと目的を自らの興味に引き寄せて理解できる。 ・質の高い調査から地域の魅力や課題を発見し、他者に上手に伝えるかたちでまとめることができる。 ・自らの関心に紐づく、地域に適應する創造性ある企画書をデザインと共に作成することができる。	・地域デザインに関わる様々な取り組みを学び、そのプロセスと目的を理解できる。 ・調査から地域の魅力や課題を発見し、まとめることができる。 ・地域に適應する企画書をデザインと共に作成することができる。
KYO87-2-182	応用	副専攻	ソーシャル・イノベーション特論2	副専攻必修	2・3	講義+演習	2	4Q							50		20	30					ソーシャル・イノベーションの視点から設計するプロジェクトデザイン	ソーシャルイノベーションにおいて、コミュニティやビジネスの現場でこれからの時代に必要なくみをつくっていくために、これまで考えられてこなかった展望や潜在的な要因から、新しいくみを生み出し、それを実践に展開していく必要がある。プロジェクトデザインとは、そういった実践を生み出す上位構造としてのしくみを考えることである。そのために、解像度を上げて調査できるデザインリサーチのメソッドを使って、プロジェクトデザインを自ら構想する。講義では、プロジェクトデザインの概要と事例、デザインリサーチのメソッドを学び、演習では、自らの問題意識から実践活動を起こし、そのためのプロジェクトデザインを企画する。	・デザインリサーチのメソッドを深く理解してプロジェクトデザインのために実践的に使用することができる。 ・プロジェクトにおける課題発見を通して、魅力のあるコンセプトをつくることことができる。 ・コンセプトに基づき、広く理解を得るかたちで段階的に設計に発展させることができる。	・デザインリサーチのメソッドを理解してプロジェクトデザインのために使用することができる。 ・プロジェクトにおける課題発見を通して、コンセプトをつくることことができる。 ・コンセプトに基づき、設計に発展させることことができる。
KYO87-2-183	発展	副専攻	ソーシャル・イノベーション総合演習	副専攻必修	2・3	演習	2	1Q 3Q										30	40	30			社会創成のための課題解決と未来への提案の構想	現代の多くの変化と複雑な課題への解決策を探索する。カリキュラムで得た知見や方法論を活かし、社会や地域におけるリサーチを通して、新しい地域創生の課題解決と未来への提案をデザインを通して自ら探求する演習。デザインリサーチやデータリサーチを重視し、地域へのフィールドワークで潜在的な課題を見出し、新たな着眼点での地域創生の提案を構想できるようにすることで、地域を変革していく具体的なイメージを持ち体験的に学び総合的に学びを深める。	・副専攻で学んだ知見や方法論をもとに自らのアイデアを展覧させ、それらを統合する視点を獲得することができる。 ・地域におけるリサーチを創造的に実施し、潜在的な課題を発見することができる。 ・課題を解決し地域の未来をつくるための独創性のある提案をつくることことができる。	・副専攻で学んだ知見や方法論をもとに自らのアイデアをつくることことができる。 ・地域におけるリサーチを実施し、課題を発見することができる。 ・課題を解決し地域の未来をつくるための提案をつくることことができる。

ナンバリング	段階	科目群	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学修目標	到達目標	
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6					
KYO87-2-163	基礎	副専攻	画像研究	副専攻選択	2・3	講義+演習	2	1Q							50	50	画像とテクノロジーの相互関係性について	テクノロジーの進化により新たな画像生成手法が生まれ、文化的な進化を続けてきた現代において、多様な技術を用いた作為的・無作為的生成及び、画像の多様なメディアを通じた流通の発展が我々の心身に及ぼす影響と、今日の環境下におけるイメージの認知プロセスの変容について実践を交えながら考察を行い学習を進めていく。	画像生成の技術やメディアを通じた流通が心身に及ぼす影響についての知識を習得し、それらを実践的なレベルで応用できるようになる。現代の環境下においてイメージの認知プロセスの変容を分析し、個人や社会に与える影響について予測する能力を磨くことができる。実践的なプロジェクトや研究を通じて、画像の流通の倫理的・社会的側面を考慮しつつ、新たなアイデアやイノベーションを生み出す能力を発展させることができる。	画像の生成に関する基本的な理解と、多様なメディアを通じた流通が心身に及ぼす影響について認識できるようになる。実践を通して、画像の作成や流通における個人や社会の役割を考察する能力を養うことができるようになる。
KYO87-2-164	基礎	副専攻	音響研究	副専攻選択	2・3	講義+演習	2	2Q							50	50	音響とテクノロジーの相互関係性について	楽器や録音・再生機の発明など、「サウンド」と「テクノロジー」は歴史の中でお互いに密接に関係を持ちながら進化してきた。本科目では、それぞれの進化の過程において、相互的に影響を与えた点を理解および考察し、実践的な環境において多様なアプローチを試みることで、新たな進化の可能性を志向し、学習を進めていく。	「サウンド」と「テクノロジー」の進化における複雑な関係を分析し、その影響を総合的に理解する能力を身につけることができる。実践的な環境において、創造的なアプローチを取り入れ、サウンドとテクノロジーを統合した新しい表現形式を探求する能力を発展させることができる。	楽器や録音・再生機などの「サウンド」と「テクノロジー」の歴史的关系を理解し、それぞれが進化の過程でどのように影響を与えたかを理解できる。実践的な環境において、異なるアプローチを試みるができる。
KYO87-2-165	基礎	副専攻	自然言語研究	副専攻選択	2・3	講義+演習	2	3Q							50	50	言語とテクノロジーの相互関係性について	文化史において重要な要素である言語は、これまで多様な表現を生み出してきたが、現在SNSなどの双方向的な発信や、対話型AIの登場など、「テクノロジー」の影響を受け大きな転回点を迎えている。本科目では、自然言語を用いた多様な表現を学び、「テクノロジー」による拡張的な利活用や表現を実践的に試み、学習を進めていく。	SNSや対話型AIなどの最新テクノロジーを駆使し、自然言語を用いた表現活動の可能性を探求する能力を磨くことができる。テクノロジーを通じて言語の新たな利用法や表現手法を開発し、文化史における言語の役割に対する新たな理解を深める能力を発展させることができる。	自然言語が文化史において果たしてきた役割を理解し、言語を用いた多様な表現の重要性を認識できるようになる。テクノロジーを活用して自然言語の拡張的な表現方法を学び、実践的な活動に取り組むことができるようになる。
KYO87-2-166	基礎	副専攻	非言語コミュニケーション研究	副専攻選択	2・3	講義+演習	2	4Q							50	50	非言語コミュニケーションとテクノロジーの相互関係性について	多様なテクノロジーにより、知覚・身体が拡張された現代において、パフォーマンスアートなどを中心とした非言語的コミュニケーションや表現活動の、歴史的な理解と現在地を見渡すための視座を獲得し、それを踏まえた上で自身(もしくは他者)の身体においていかなるアプローチが可能かを実践的に取り組み、学習を進めていく。	未来のトレンドや発展を予測し、それに基づいてパフォーマンスアートの未来について洞察を得ることができるようになる。非言語的コミュニケーションや表現におけるクリエイティブな能力を高め、新しい表現形式やアートの領域に挑戦することができるようになる。イノベーションや実験的なアプローチを通じて、パフォーマンスアートにおけるテクノロジーの可能性を拡大させる能力を磨くことができるようになる。	パフォーマンスアートを中心とした非言語的コミュニケーションや表現の歴史的な理解を得ることができるようになる。現代のテクノロジーによって知覚・身体が拡張された環境下での非言語的コミュニケーションや表現の特徴を理解することができるようになる。
KYO87-2-167	基礎	副専攻	アート&テクノロジー	副専攻選択	2・3	講義+演習	2	1Q							50	50	アートとテクノロジーの融合・親和性について	芸術(アート)と技術(テクノロジー)の歴史的な共通性やそれぞれの個性化、また現代における別々の進化や両者が近接するイノベーションなど、アート&テクノロジーの融解と融合の足跡をたどりながら、現代の様々なケーススタディとともに、それぞれの成立過程、差異化の文化的背景、再融合の歴史の変遷などを学んでいく。	芸術(アート)と技術(テクノロジー)が交錯する現代の特性を理解できるようにする。	・芸術の歴史からアートとテクノロジーの長く続く親和性を認識できる。 ・アートとテクノロジーの不可分性を言語化できる ・現代における両者の融合の事例を発見することができる。
KYO87-2-168	基礎	副専攻	芸術の考古学	副専攻選択	2・3	講義+演習	2	2Q	双方向遠隔						50	50	考古学的視座から観るアートの多義性	古代から綿々と続く人類の物質文化の歴史に関連する様々な事例や対象を考古学的な視座から捉え、それによってもたらされる美術と芸術の差異や日本文化と海外での「アート」の認識の違いについて、様々な事例を通して各自が理解し、考察することで、「アート」を改めて再認識し、一般的な理解とは異なるオルタナティブな再解釈を試みる。	美術と芸術、世界と日本の文化における「アート」の差異を、自分自身の言葉で解釈できるようになる。	・博物館と芸術の関連を事例を通して理解することができる。 ・美術と芸術の差異を言語化することができる ・現代における物質の特性を理解し、新たなアートの一面を顕在化することができる。
KYO87-2-169	基礎	副専攻	芸術資源論	副専攻選択	2・3	講義+演習	2	3Q							50	50	アートにまつわる有形/無形資源について	芸術が研究や概念化に関わるものだけではなく、常に実践と社会との接面を有する「活動」である限り、この活動には法制度や他者との利害関係、貨幣的価値との摩擦が伴う。これらの法的、経済的側面についての実情やメカニズムを学ぶことで、新しいアートを保存し、存続させ、普及・浸透させていくための方策を思索していく。	社会の中での「アート」の活用形態を知り、その意義と活用プロセスを自分の言葉で説明することができる。	・法や秩序と芸術の関係を認識することができる。 ・芸術の経済的側面を事例を通して理解する。 ・非資本主義的な芸術活動について、当事者化したものの方策を習得する。
KYO87-2-170	基礎	副専攻	多元芸術論	副専攻選択	2・3	講義+演習	2	4Q							50	50	ヒップホップという芸術について	所謂西洋的な芸術史に囚われない、オルタナティブな芸術の一つの事例として、「ヒップホップ」というアートフォームを取り上げ、音楽、ビジュアルアート、カルチュラルスタディーズ、舞踏、鑑賞など、多元的な視点を交錯させながらアートを取り囲む状況を知り、オルタナティブ・アートとしてのヒップホップの概念化を行う。	既存概念を超えて、様々な対象にある芸術性を見通す視点を身につける	・ヒップホップの歴史を多重的に理解できる ・所謂西洋美術から逸脱した芸術を認識できる ・現代ヒップホップの事例からその芸術性を浮かび上がらせることができる
KYO87-2-171	基礎	副専攻	サステナビリティスタディーズ	副専攻選択	2・3	講義+演習	2	1Q							50	50	自然環境と連関する人の営みについての理解と地域資源の活用提案の作成	これからの地球環境を考えるためには、地域における社会形成を考えていく必要がある。地域での資源の活用、経済、歴史や文化など多角的に課題を捉えて持続可能な未来を構想し、それぞれの地域で暮らすやすい環境をつくるが必要になっている。講義では、山や森の自然環境と人の営みの連関、デザインの果たす役割を学修する。演習では未来の環境をどうつくっていくかを持続可能性の観点から、将来的に地域の直面するさまざまな課題解決に向けての具体的な方策を思索する。	・地球環境を考えた上で地域の自然について多角的に理解を深めることができる。 ・未来の地域の環境を鑑みたくて自然と人の連関から現在の課題を質高く発見することができる。 ・地域の持続可能性のための具体的な方策を独自の視点から創造性を持って提案することができる。	・地球環境を考えた上で地域の自然について理解することができる。 ・未来の地域の環境を鑑みたくて自然と人の連関から現在の課題を発見することができる。 ・地域の持続可能性のための具体的な方策を提案することができる。
KYO87-2-172	基礎	副専攻	インクルーシブスタディーズ	副専攻選択	2・3	講義+演習	2	2Q							50	50	インクルーシブな社会の実現に向けて	多様性社会の実現はソーシャルイノベーションにとって、重要なテーマ。排除的な社会であった20世紀から、インクルーシブな社会の形成をめざす現在。これまでにない多様な人々が自らの声を上げられる状況が誕生しているが、社会では、まだアンコンシャスバイアスがあるなど、共創社会には距離がある。そして、多様性は人だけではないので、自然環境も大切である。そういった状況を踏まえて、社会をインクルーシブにしていけるための方法を探究していく。講義では、インクルーシブデザインを含めた概要や事例を学び、演習ではフィールドワークによる多角的観点から現在の課題について理解を深め、多様性のある社会実現のための企画を考える。	・多様性のある社会を実現するためのさまざまな取り組みを理解して自らの思考に発展させることができる。 ・フィールドにおける調査から精度の高い課題を多視点から発見することができる。 ・調査をもとに、インクルーシブな社会を生み出すための方策を創造性ある成果物を通して他者に伝えることができる。	・多様性のある社会を実現するためのさまざまな取り組みを理解することができる。 ・フィールドにおける調査から課題を発見することができる。 ・調査をもとに、インクルーシブな社会を生み出すための方策を成果物を通して他者に伝えることができる。
KYO87-2-173	基礎	副専攻	マネジメント演習	副専攻選択	2・3	講義+演習	2	3Q							50	50	ブランドマネジメントのためのデザインメソッドの修得	ソーシャルイノベーションにおいて社会価値と市場価値を架橋し、その相乗効果によって新たな事業や仕事の創出を行う必要がある。講義では2つの価値を誰にどのように提供するかを考えるマーケティングの方法論を理解しながら、ブランドが創り出す価値をビジュアライズし、その戦略や魅力が多くの人に届けるデザインを事例を通じて学修する。演習ではブランディングデザインのメソッドワークに沿って社会課題解決につながるブランド戦略のたて方を学修する。	・マーケティングの方法論を、マネジメント、マーケティング、ブランディングなどの知識と合わせて総合的に理解し、それらについて考察を深めた上で論じることができる。 ・ブランディングデザインのメソッドを用いて、ソーシャルデザインなどのプロジェクトをマーケティングベースのブランディングを応用して発展させて提案を論じることができる。	・マーケティングの方法論を、マネジメント、マーケティング、ブランディングなどの知識と合わせて総合的に理解し、それらについて論じることができる。 ・ブランディングデザインのメソッドを用いて、ソーシャルデザインなどのプロジェクトをマーケティングベースのブランディング提案を論じることができる。

ナンバリング	段階	科目群	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学修目標	到達目標
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6				
KYO87-2-174	基礎	副専攻	リーダーシッププログラム	副専攻選択	2・3	講義・演習	2	4Q		50			50			リーダーシップのあり方について学ぶ	<p>多様性のある社会の実現、地域における課題解決、新しい事業の創出などあらゆる局面において、ステークホルダーやそこに参加する人々との話し合いを含めた協働が重要である。そのような状況において組織の意見をまとめて目標達成に導く、これからの共創社会におけるリーダーの役割とはどのようなものかを考える。講義を通してコーチングスキルや組織のあり方について学ぶ。演習ではグループワークをおこない、チームのあり方そのものを考え、与えられた課題を解決へ導くために、話し合いと協働のためのフレームワークを構想することで卒業後の社会での自分の像を想像する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な未来を切り拓くためのリーダーシップのあり方を理解し、深く探究することができる。 リーダーシップをグループワークでの協働を通じて積極性を持って体験的に修得することができる。 ステークホルダーの多層的な視点をベースにこれからのリーダーのあり方を自らの精緻な考察とともに論じることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な未来を切り拓くためのリーダーシップのあり方を理解することができる。 リーダーシップをグループワークでの協働を通じて体験的に修得することができる。 ステークホルダーの多層的な視点をベースにこれからのリーダーのあり方を論じることができる。